

# 学内広報

for communication across today



特集： ■ 「入学時期等の教育基本問題に関する検討会議」発足  
■ 東京大学 味なお店ガイド

2012.6.25

No. 1426

# 特集 「入学時期等の教育基本問題に関する

濱田純一総長の私的諮問機関として約1年間にわたって審議を続けてきた「入学時期の在り方に関する懇談会」(以下、「懇談会」)は、本年3月末、濱田総長に報告書を提出しました。報告書では「よりグローバルに、よりタフに」学生を育成するために、学部段階の秋入学への移行をはじめとする総合的な教育システムの改革が提言されました。これを受けて、4月10日に濱田総長は「改めて、総合的な教育改革の推進に向けて一学部教育について一」と題する新たな方針を示しました。そこでは入学時期の見直しを含め、教育制度の大枠や教育の質向上に関する諸課題に取り組むことが明記されています。

そしてこのたび、懇談会の後継検討組織として、役員会の下に「入学時期等の教育基本問題に関する検討会議」(以下、「検討会議」)が発足し、審議を開始しました。座長は懇談会座長を務めた清水孝雄理事・副学長、座長代理は長谷川壽一総合文化研究科長です。委員には教育企画室、入試企画室、国際本部や複数の研究科の長が名を連ねており、全学的な教育改革を担う学内の既存の組織と連携しての検討が期待されます。

→詳しくは **1** へ

検討会議の目的は、東京大学憲章に掲げられた「世界的視野をもった市民的エリート」の育成に向けて、秋季入学の構想を視野に入れつつ教育の基本問題について検討することです。具体的には、本学における総合的な教育改革の全体工程を整理・可視化しつつ、大綱的な方針の在り方を提言すること、また、秋季入学への移行やギャップタームの導入の可能性をはじめ、望ましい学事暦及び関連する事項について検討し、基本的な方向性や新たな教育システムの実現に向けて想定されるステップについて提言することなどが求められています。

→詳しくは **2** へ

濱田総長は、検討会議への諮問に当たって表明した総長所信の中で、「ここ5年くらいが勝負どころ」と述べつつ、「本検討会議の審議の明確な終期は設定しにくいところですが、本年度中を一応の目途として一定の成案をとりまとめるよう」検討会議に要請しています。今後は、検討会議の下に置かれる企画調整部会や、資格試験制度、ギャップターム、学事業務見直しの各作業部会における具体的な検討も進められていきます。

→詳しくは **3** へ

## 1

### 検討会議の設置要項と名簿

平成24年4月23日  
役員会了承

入学時期等の教育基本問題に関する検討会議の設置について

#### 1. 趣旨

「世界的視野をもった市民的エリート」の育成に向けて、秋季入学の構想を視野に入れつつ教育の基本問題について検討するため、役員会の下に、入学時期等の教育基本問題に関する検討会議(以下、「検討会議」という)を設置する。

#### 2. 任務

検討会議は、「入学時期の在り方に関する懇談会」報告(平成24年3月29日)及び総長文書「改めて、総合的な教育改革の推進に向けて一学部教育について一」(平成24年4月10日)を踏まえ、秋季入学の構想をめぐる諸課題をこれと関連し合う教育改革の基本問題とともに調査審議し、役員会において策定する関連の方針について提言を行う。

#### 3. 委員等

- (1) 検討会議の委員及び座長は、本学の教職員の中から総長が指名する。
- (2) 座長は、必要と認める場合、検討会議の下に、専門的事項を調査審議する作業部会、また、それらを統括する企画調整部会を置くことができる。
- (3) その他検討会議の運営については座長が定める。

#### 4. 提言についての取扱い

検討会議で作成する提言については、学内諸会議での議に付すなど、幅広く意見を聴く機会を設ける。役員会は、これらの手続きを踏まえて、必要な方針を策定する。

### 入学時期等の教育基本問題に関する検討会議委員名簿

所属・職名	氏名	備考
理事・副学長	清水 孝雄	座長
理事・副学長	佐藤 慎一	
理事・副学長	武藤 芳照	体験活動WG担当
副学長	羽田 正	国際本部長
副学長	吉見 俊哉	教育企画室長
人文社会系研究科・教授	高橋 和久	入試企画室長
法学政治学研究科・研究科長	山口 厚	
医学系研究科・研究科長	宮園 浩平	
理学系研究科・研究科長	相原 博昭	
総合文化研究科・研究科長	長谷川 壽一	座長代理
新領域創成科学研究科・研究科長	上田 卓也	
社会科学研究所・所長	石田 浩	
工学系研究科・教授	小関 敏彦	企画調整部会長
薬学系研究科・教授	長野 哲雄	
生産技術研究所・教授	野城 智也	
経済学研究科・教授	渡邊 努	総長補佐(オブザーバー)



ウェブサイトに特設ページを開設しています。  
(「東大トップページ」から「総長談話」ボタンをクリック)  
※<http://www.u-tokyo.ac.jp/gen02/fall.enrollment.html>



# 「検討会議」発足

このたび役員会の下に「入学時期等の教育基本問題に関する検討会議」が設置されました。今後、総合的な教育改革の取組みが加速します。

## 3 諮問に当たっての総長所信

平成24年5月22日

入学時期等の教育基本問題に関する検討会議 御中

総長

### 役員会諮問に当たっての総長所信

このたびは、「入学時期等の教育基本問題に関する検討会議」に参加をいただき、お礼を申し上げます。

この検討会議は、本年3月に任務を終えた「入学時期の在り方に関する懇談会」の後継組織となりますが、検討の幅をさらに大きく広げ、秋季入学の構想をめぐる諸課題を、これと関連し合う教育改革の基本問題とともに調査審議いただくことを役割としています。

その背景にある思いは、本年4月10日付けの「改めて、総合的な教育改革の推進に向けて」において述べたとおりです。日本の社会・経済の将来に対する危機感の高まりとグローバル化の急速な進行の中にあつて、秋季入学の構想についてしっかりと検討をすすめていくことが東京大学の社会的役割であると考えています。同時に、秋季入学は、「世界的視野をもった市民的エリート」を育成すべく「よりグローバルに、よりタフに」学生を育てていくための教育改革構想の一環をなすものであり、改革の総合的な実現に向けた全体感の下に取組みを行っていかねければなりません。

こうした考え方を理解いただきながら、この検討会議では、役員会からの諮問事項を踏まえた提言をお願いします。さまざまな改革のすみやかな実現と必要なステップを考えれば、この検討会議からの提言は、必ずしも最終的な提言一つということに限らず、必要に応じて逐次に提言をいただくことも期待しています。また、当面、学部段階における教育改革に重点を置いて審議いただくこととなりますが、もとより大学院段階も議論の射程に入れる必要があり、私としても、状況を見ながら改めて所信を述べたいと考えています。なお、審議にあたっては、教育改革の諸課題を軸としながらも、それらと不可分な研究あるいは経営に関わる課題についても必要に応じて触れていただければと思います。

提言にあたっては、学内の幅広い意見を聴く機会を適時に設けていただき、役員会とも連携しながら学内諸会議での意見聴取のための付議も行っていただきたいと思ひます。私としても、さまざまな機会を通じて、秋季入学ほか教育改革全般について広く学内外の意見を聞き、議論をし、可能な改革についてはすみやかに取組みをすすめていきたいと考えています。

私は、秋季入学について「実施するとすれば5年後ということを目途」と述べてきましたが、秋季入学に限らず、総合的な教育改革への取組

みは、日本の社会や大学をとりまく諸情勢に照らせば、ここ5年くらいが勝負どころであると考えています。このため、本検討会議の審議の明確な終期は設定しにくいところですが、本年度中を一応の目途として一定の成案をとりまとめるよう、ご努力いただければと思います。

この検討会議における調査審議は、これからの東京大学の教育制度の整備や教育の質向上のために、きわめて重要な意義を持つものと考えています。実りある検討がなされるよう、委員各位には格別のご尽力をお願いするとともに、学内の各方面の積極的なご協力を期待しています。

## 2 役員会から検討会議に宛てた諮問文書

平成24年5月17日

入学時期等の教育基本問題に関する検討会議 御中

役員会

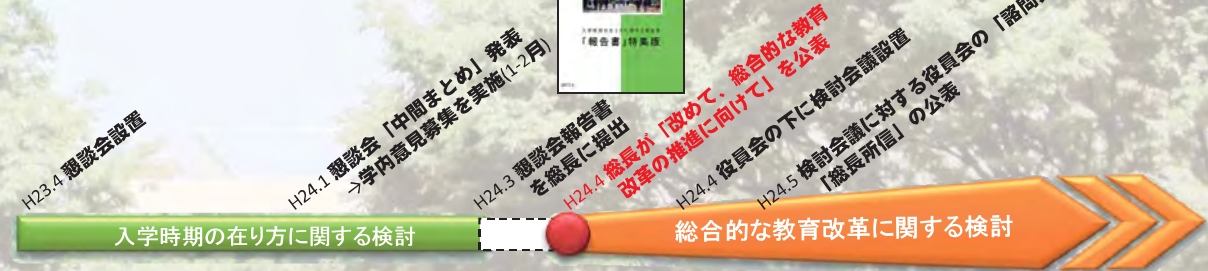
下記の事項について諮問します。

記

諮問事項：入学時期等の教育基本問題について

1. 本学における総合的な教育改革の全体工程を整理・可視化しつつ、大綱的な方針の在り方を提言すること
2. 教育改革全体の動きと連携させながら、かつ、各方面から指摘される課題を十分にかつすみやかに消化しながら、秋季入学への移行やギャップタームの導入の可能性をはじめ、望ましい学事暦及び関連する事項について検討し、基本的な方向性や新たな教育システムの実現に向けて想定されるステップについて提言すること
3. すみやかに取り組むべき教育改革の課題を確認し、他の関連検討組織との連携を図りつつ、秋季入学の構想に深く関わるものを含め、本検討会議が直接取り扱うことが適当と判断する事項について、必要な方策の在り方を提言すること

### 入学時期の在り方や総合的な教育改革に関するこれまでの検討の流れ



本件担当：本部企画課 長期構想チーム(22760)



# 特集

## 東京大学 味なお店ガイド —大学とともに歩んで100数年—

東京大学では100年以上前から学生・教職員の福利厚生などのために、多くの学外の方に構内で業務を行っていただいています。法人化以降は特にその業者さんの数も増えてきました。その中でも今回は長い歴史を誇る東大とともに歩んできたお店をご紹介します。少しでも興味がわいたら、営業時間をチェックしてお店に足を運んではいかがでしょうか？

### 文陽堂文具店

### 3代続く文具店～やっぱり東大が一番！～



#### —東大で文具店を経営することになった経緯は何ですか？

祖父が東大からの要請で、構内で文具店を開いたのは昭和4年のことです。開業当初は三四郎池の藤棚の近くで営業しており、昭和の初めに法文2号館地階へ移転しました。その当時、文具業界でお店の規模は万年筆を置くケースの数で決まると言われていましたが、文陽堂は東京でもそのケースが多く、規模が大きいほうの部類でした。また大学にずいぶん信頼されていて、祖父は母がお店で寝泊まりしながら経営するほどでした。

その後、父がお店を継いだのですが、九州出身の父は昭和8年東大卒で、その当時お店の看板娘であった母と結ばれたのをきっかけに、一度社会にでてからお店を継ぎました。



祖父時代の文陽堂。左上が祖父で、中央の制服姿の女性が看板娘の母です

僕は昭和45年に父からお店を継ぎました。当時は学内での価格統制が厳しく、市場価格の8割で売るといった条件がありましたが、大学という学問をする環境であったため、文具の需要は多く、売れ行きは生協さんという勝負でした。

#### —東大生の印象は変わりましたか？

日本の政治が紆余曲折していた時代には、学生同士でお店に来ると「国をどうする、俺がああする」といった天下を論じている人が多かった。当時はさすが東大生だなと思いましたが、今では自分のことで精一杯の学生が多い気がします。時代のせいでしょうね。

#### ノートさえ作れば一生大丈夫

#### —ヒット商品は何かありましたか？

「バイキングフルス紙」という紙の裏表が均一で非常に上質な紙を使用したノートを販売しており、その書きやすさから、この小さなお店でも毎年4月には8万冊のノートが完売するほどでした。今はもう販売していませんが、祖母は「ノートさえ作ればお前は一生大丈夫だ」と言うほどよく売れていました。

#### —過去のエピソードを教えてください。

東大闘争の間は一般の学生がロックアウトされていたため、2年ほど商売にならず、リーマンショックの出来事どころではなかったです。この商店街の人たちはそういう意味でとても苦労してきました。大学全体、日本全体を巻き込む大きな問題でしたが、1人1人学生の話真剣に聞くと間違ったことは言ってなかったと思います。

#### —東大生へのメッセージをお願いします。

東大で3代続けて働かせてもらっているの、東大への想いは人一倍です。東大は日本一の大学ですから、世界で活躍できる人になってもらいたいです。ノーベル賞も東大卒の人でないと、日本人が受賞した気がしないくらいです。今は下積みだけど、これから勉強していることがいつか花開くから頑張ってほしいです。

個人的に、東大生は超エリートであってほしい、そんな学生を育てることの少しでも支えになればと思っています。みんなここに入学できるだけの力があるのだから、僕たち大学側がサポートすれば、きっといい人材が育つと思います。これから先、世の中がどう進むかわかりませんが、学生のためにできることを考えていきたいです。ここから世界に飛び出ることを期待しています。ここを出た人に日本を支えてほしいです。やっぱり東大が一番です。(談)



文陽堂文具店  
(文具販売・印刷・複写)  
法文2号館 地階  
平日9:15~18:00  
tel:03-3813-7386(内27942)



# KITADOKO

## 夏目漱石も通った！？美容室

KITADOKOは東大の正門の前に、130年くらい前からあったと聞いています。大正5年から東大構内で営業をはじめ、私は4代目、息子で5代目となります。正門前にあった頃、夏目漱石のあの「吾輩は猫である」にも喜多床に行けばよい男になる、と名前が出てくるくらい、歴史のあるお店です。理髪店だった頃には、ノーベル賞を受賞された小柴昌俊先生も、月2回くらいいらっしやっていました。

美容室になったのは2008年ですので、もう丸3年になります。移転により店舗が狭くなり、許可の問題などから、理髪店から美容室にしました。通常は、女性2人の美容師が対応しています。以前は年配の方の利用が多かったですが、美容室になってからは学生さんが多くなりましたね。女性のお客様にもたくさん来ていただきたいですが、現状は8：2くらいで男性の方が多いです。

当店の売りは、アットホームな雰囲気です。女性も男性も、気軽にお越しいただき、おしゃれな髪型をサポートしたいと思っています。また、さまざまな値引きサービスを行っています。今ならキャンペーンでまゆげカット100円、次回予約すると10%オフ、留学生割引などがあります。ヘッドスパなどのメニューもありますので、女性にも気軽に来ていただきたいです。最近ではTwitter (@KITADOKO) でも情報を発信していますので、是非ご覧ください。(談)



お話・船越荒磯さん



**KITADOKO**  
(美容室)  
安田講堂北側建物  
受付9:30~18:30(日祝休み)  
(パーマ・カラー17:30まで)  
tel:03-3815-8410(内27949)

# 岡田製本店

## 学外ユーザーも抱える製本店

岡田製本店は私で3代目になりますが、昭和14年に祖父がここで製本業をはじめの許可をうけて、昭和25年に私の父が、平成6年に私が引き継ぎました。製本がメインですが、こちらに以前あった洋服屋さんの業務を一部引き継いで白衣の販売も行っています。姉がデパートでユニフォーム販売をしていたので、ちょうどよかったです。昔は雑誌の合本などを作っていたのですが、今は博士論文など国会図書館に提出するものの製本が増えてきました。父の頃は

文学部に出張してその場で卒論を製本する、というようなこともやっていました。

店を抱えて製本店をしているところが世間であまりないからか、外からのお客様もお見えになります。他の大学に行かれた先生や、構内見学にいらした方もお越しになってくださいます。

自分史など自費出版のものの製本を依頼されるお客様もいらっしやいますよ。



お話・岡田一浩さん



有名な方ですと、舛添要一さんがいらっしやったと母から聞いています。それと外部の方ですが、故・千石正一先生も何回か製本にいらしてくださいました。

製本にかかるのはハードカバーだと1週間~10日くらい、ソフトカバーだと2~3日ですが、締切ギリギリでもできるだけ対応させていただきます。祖父の代から受け継がれてきた技術を活かして、手作業で一つ一つ丁寧に製本いたしますので、是非ご用命いただければと思います。(談)



(上)文字を金色にするときは、この薄い金色の紙を挟んで印字します  
(下)この機械で熱して印字します  
(左)印字をするとき、これらのハンコを組み合わせて文章を作ります  
以前「亨」という字を「享」と間違えて印字したことがあります(笑)



**岡田製本店**  
(製本業務・白衣販売)  
法文2号館 地階  
平日9:30~17:00  
tel:03-3811-6488(内27975)



## 新光社

## 集合写真から証明写真まで受付中

新光社は、浦和で修学旅行の団体写真などの仕事をしていた私の父が、昭和26年に前任の方より引き継いだお店だと聞いています。私は昭和47、8年頃からここで勤めています。

当時はポジフィルムを映写していたので、学会などのスライド作成が主な業務でした。その頃は写植や原稿作りなども行っていました。あとは卒論に貼る写真なども撮影していましたね。

今は、フィルムをデータ化してほしいとか、アナログとデジタルの間を埋めるようなサービスを行っています。あとは就職活動用の写真などで、学生さんを応援しています。今の学生さんは、アルバイトで使うような証明写真はBOXのものでいい、という人も多いため、それに対抗してうちでも2枚600円で、そのサイズにカットしてお渡ししています。プラス200円でデータのCDもおつけできます。次からそのCDをもらえれば、ご希望の大きさにあわせてこちらでカットします。また、証明写真が優先なので忙しい時はできないのですが、撮ったばかりのデジタル写真の印刷も即日対応もしています。



安田講堂全景



(上) 山下さんの先輩が撮影された安田講堂のポストカード。店頭にて販売中  
(下) 佐々木さんが撮影された本郷キャンパス内の写真



佐々木克也さん

お話・山下公好さん

左下にご注目！さすが写真屋さんというだけあって、ご自身でレフ板を持たれています

山上会館での催し物などの撮影、出張して集合写真の撮影などもやっています。お休みの日に対応したり、納品の日程の融通をきかせたりすることもできるので、お気軽にご相談ください。(談)

新光社  
(写真撮影・写真材料販売)  
法文2号館 地階  
平日9:15~18:00  
tel:03-3811-8584(内27976)

## 御殿

## 外の景色も味わえる教職員食堂

日替わりランチ(700円)を中心にアラカルトメニュー・コースメニューをご用意しています。価格をご希望にあわせるようにしていますのでご相談ください。また17時以降は、立食形式のパーティーも承っています。メニュー・価格は、お客様のご希望に添うよう努力しますのでご相談ください。

昭和26年、教官食堂として創業して以来“手作りの味” “アットホームな雰囲気のお店”



をモットーとして営業してきました。今後も創業時の精神を忘れることなく、時代時代の変化を取り入れ、お客様のご要望に応えられるよう頑張ってお参りますので、ぜひご利用ください。

御殿  
山上会館 地階  
昼11:30~14:00(13:30LO)  
夜17:00~20:30(2時間単位)  
土日祝日は団体予約のみ  
tel:03-3818-8888(内22344)

## 東大教材出版

## 印刷一筋65年！印刷ならお任せ



研究報告書、年報、会報、カラーパンフレット、ポスター等の印刷や東京大学大学院(現7研究科)の入試問題集の作成・販売や、さまざまなデータからの編集ならびにカラーデータの作成・アドバイスなど、印刷全般にかかわる業務を行っています。

前身である財団法人東京大学出版会教材部時代に、東大紛争・安田講堂崩落の様も目の当たりにしつつ早65年が経ち、これまで印刷

一本でやってきました。時々刻々と変化する厳しい競争業界ではありますが、誠心誠意をモットーに皆様のご要望にお応えできるよう努力しています。ぜひ足をお運びください。


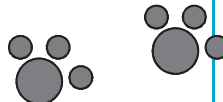
東大教材出版  
(印刷・出版・教材販売)  
法文2号館 地階  
平日9:00~17:00  
tel:03-3813-7389/ 03-5841-7960



# 東大内のお店一覧

●本郷キャンパス●		
ー飲食系		ーその他サービス
イタリア家庭料理 カポ・ペリカーノ 本郷店 医学部教育研究棟 13階 昼11:00～15:00(14:30LO) 夜18:00～22:00(21:00LO) 日祝休み	ドトールコーヒーショップ 理学部新1号館 1階 平日8:30～19:00 土曜9:00～19:00 日祝10:00～17:00	日本プリントセンター (過去問販売) 工学部13号館 1階 平日10:00～17:00
鉄門カフェ カポ・ペリカーノ 医学部教育研究棟 1階 平日10:00～15:00 休日の次の日のみ11:00～	日比谷松本楼 工学部2号館 1階 平日11:00～21:00 (20:30LO)	文学部複写センター (複写機設置・製本業務) 法文2号館 地階 平日10:00～17:00
サブウェイ 工学部2号館 1階 平日10:00～20:30 土曜10:00～17:00	ラウンジハーモニー 山上会館 1階 平日9:30～15:30 17:00～貸切可 土日祝日不定休	ローソン 安田講堂店 ローソン 龍岡門店 (コンビニエンスストア) 24時間営業
スターバックスコーヒー 工学部11号館 1階 平日8:00～20:00 土日祝9:00～20:00	UTカフェ ベルトレ・ルージュ 情報学環・福武ホール 1階 平日10:00～20:00(19:30LO) 土曜10:00～20:00(19:30LO)	ローソン 薬学部店 (コンビニエンスストア) 薬学部総合研究棟 平日10:30～19:00

●弥生キャンパス●	
ー飲食系	
レストラン アブルポア 向ヶ岡ファカルティハウス 1階 平日11:00～21:00(19:30LO) 土曜11:00～21:00(19:30LO)	
アブルポア ラウンジS 向ヶ岡ファカルティハウス 2階 平日16:00～22:00(21:30LO) 土曜16:00～22:00(21:30LO)	
フードサイエンスカフェ フードサイエンス棟 2階 平日10:00～17:00	
ーその他サービス	
株式会社アブルポア (食堂・宿泊施設・セミナー室の管理運営) 向ヶ岡ファカルティハウス 9:30～18:00 日祝休み	

●本郷キャンパス(病院地区)●		
ー飲食系	ーその他サービス	
三四郎 外来診療棟 地階 平日8:30～17:00	あすなる (ミニコンビニ) 外来診療棟 1階 平日8:00～16:30	花慶 (フラワーショップ) 入院棟A 1階 平日8:00～20:00 土日祝9:00～18:00
タリーズコーヒー 入院棟A 1階 7:00～20:00	Kショップガーデン (コンビニエンスストア) 入院棟A 1階 24時間営業	リ・リーフ (ヘアサロン) 入院棟A 1階 平日9:00～19:00 土曜9:00～19:00
ドトール・コーヒー サンクン・ガーデン 平日7:30～19:00 土曜10:00～17:00 日祝10:00～17:00	佐川急便取次所 (入院患者の荷物集配) 旧中央棟 1階 8:30～17:00	ローソン 東大病院店 (コンビニエンスストア) サンクン・ガーデン 平日7:30～19:00 土日祝10:00～17:00
ねむの樹 入院棟A 1階 平日8:00～20:00 土日祝10:00～20:00	ツーリストサービス (旅行代理店) 管理・研究棟 地階 平日10:00～18:30	
ブルークレール精養軒 入院棟A 15階 11:00～20:00		

●駒場キャンパス●	
ー飲食系	
ルヴェンソーンヴェール駒場 駒場ファカルティハウス 1階 昼11:00～15:00 (14:30LO) 夜17:00～22:00 (21:00LO)	カフェ カポ・ペリカーノ 総合研究実験棟 (An棟) 1階 11:00～17:00 (16:30LO) 日祝休み
イタリア家庭料理 カポ・ペリカーノ 駒場店 総合研究実験棟 (An棟) 1階 昼11:00～15:00 (14:30LO) 夜18:00～22:00 (21:00LO) 日祝休み	ラウンジハーモニー 食堂・会議室棟 1階 昼11:30～13:30 夜17:00～19:00 土日祝休み

●柏キャンパス●	
ー飲食系	
お魚倶楽部はま 大気海洋研究所 平日11:30～22:00 土曜11:30～22:00	柏カフェテリア 福利施設 1階 平日11:30～20:00 昼11:30～14:00 喫茶14:00～17:00 夜17:00～20:00 土曜11:30～14:00

●白金キャンパス●		
ー飲食系	ーその他サービス	
チャオベラ ラーマ 近代医科学記念館 11:00～18:00 月曜休み	売店 1号館 平日7:30～16:30	医科研構内理髪室 1号館 平日13:00～19:00

●理学系研究科附属植物園●	
ーその他サービス	
売店 観覧者案内所 平日10:00～16:30 月曜休み (月曜祝日の場合翌日休み)	

「味なお店」特集いかがでしたでしょうか？この特集を活用して、東大内のお店を利用していただけたら幸いです。取材等ご協力いただいたみなさまに感謝申し上げます。

お問い合わせ：(内)22191  
本部資産課 妹尾



# NEWS

## 春の紫綬褒章受章

長澤寛道教授、池内克史教授、田中明彦教授が、本年春の紫綬褒章を受章いたしました。

## 長澤 寛道 大学院農学生命科学研究科・農学部 教授

長澤寛道教授が、生物有機化学の研究における功績により、平成24年春の褒章で紫綬褒章を受章されました。

長澤先生は、甲殻類、軟体動物、藻類、魚類、サンゴ、昆虫等を対象に、それぞれの生物が示す特徴的な生命現象を解く鍵となる生理活性物質に関する研究を行い多くの業績をあげられました。特に、バイオミネラルゼーション(生物が無機鉱物を作ること)に関する研究では、それまで主に鉱物学や結晶学の手法で行われていたバイオミネラルゼーションの研究分野に、生物有機化学的手法を導入し、無機鉱物の結晶に微量含まれる有機物質の中に、バイオミネラルゼーションを制御する生理活性を有する物質を見出し、得られた有機物質を基盤としてバイオミネラルゼーションの全体像を解明することを目指す独創的な研究を展開しました。その結果、アコヤガイにおいて真珠の結晶ができる仕組みを、特定の炭酸カルシウム結晶に結合するタンパク質を発見しその機能を解析することで明らかにした他、魚の耳石やザリガニの外骨格の形成等に関して数多くの優れた成果をあげ、バイオミネラルゼーション研究の中に新たな研究領域を創成するに至りました。これらの成果は、結晶化の人工的な制御や二酸化炭素の固定技術への応用へとつながっています。また長澤先生は、昆虫や甲殻類のペプチドホルモンに関する研究において、脱皮・変態の鍵となる新規ペプチドホルモンを数多く発見し、昆虫や甲殻類のペプチドホルモンに関する研究の礎を築きました。

長澤先生は、これらの業績に対して、平成23年度に日本農学賞・読売農学賞を受賞されました。また、教育研究以外でも多大な社会貢献をされ、現在も研究科長・



学部長としてご活躍されています。この度のご受章を心よりお祝い申し上げますと共に、先生のご健勝と益々のご活躍を祈念しております。

(大学院農学生命科学研究科・農学部 作田 庄平)

## 池内 克史 大学院情報学環・学際情報学府 教授

このたび、池内克史教授が知能情報処理・知能ロボティクス分野における功績により紫綬褒章を受章されました。

池内教授は、人間の視覚機能を計算機上に構築するコンピュータビジョンの研究に長年携わってこられました。特に2次元画像の生成プロセスを物理学の原理原則に基づいてモデル化し、この逆モデルを用いてビジョン問題を解くPhysics-Based Visionを創設した一人で、同分野における功績は顕著です。2次元画像中に観測された物体の陰影やハイライトから3次元形状を推定する手法や、物体表面の反射特性を精密にモデル化する手法は、現在のビジョン分野における実物体のモデル化理論(Modeling from Reality)の基礎となっています。また一方では、ロボットによる物体認識プログラムの自動生成や、人間行動観察学習ロボットを開発するなど、ロボティクス分野の発展にも大きく貢献しました。

近年ではこれらの技術を発展させ、有形・無形文化財のデジタルアーカイブ化や解析などを目的とした学際的研究分野であるe-Heritageを提唱し、鎌倉大仏、奈良大仏や、アンコール遺跡群バイヨン寺院といった大規模文化財の3次元モデル化に成功しました。また会津磐梯山など日本の伝統舞踊をアーカイブするための踊りロボットを開発しました。このe-Heritageでは、技術開発だけでなく考古、芸術、建築学といった様々な分野の研究者と連携して新たな学術的知見を得るなど、異なる分野に渡って大きな功績を挙げられています。

池内教授は、これまでにコンピュータビジョン分野で最も権威ある国際会議ICCVにおいてDavid Marr Prizeや、先駆的研究者に与えられるSignificant Researchers Awardを受賞しています。またロボティクス分野ではIEEE R&A K-S Fu 記念最優秀論文賞を授与された他、国内外における論文誌、学術会議において多くの論文賞、業績賞を受賞しており、世界的にも高く評価されています。

今回の受章は池内教授の永年の功績が称えられたものであり、受章をお喜び申し上げるとともに、今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。

(生産技術研究所 大石 岳史)



田中 明彦 東洋文化研究所 教授  
(現：独立行政法人国際協力機構 理事長)

東洋文化研究所の田中明彦教授が本年度春の紫綬褒章を受章されました。田中教授は、長年にわたって、国際政治学の広範な分野で教育、研究、学会活動を積極的に行われた一方で、国内外の諮問機関で政策提言活動やメディアでの論評を発表されてきたことにより、世界の国際政治学の発展ならびに日本と諸外国との知的交流に貢献されました



田中教授の主な研究領域は3つあり、第1は、『世界システム』（東京大学出版会）、『新しい「中世」』（日本経済新聞社、サントリー学芸賞受賞）『ワード・ポリティクス』（筑摩書房、読売・吉野作造賞受賞）などの著作で、国際政治学の理論動向を批判的に整理するとともに、独自の概念化・理論化を行い、現代世界の分析に有効な概念枠組みを提示されました。第2の研究領域は、『日中関係 1945-1990』（東京大学出版会）、『安全保障』（読売新聞社）、『アジアのなかの日本』（NTT出版）などで、中国の政策決定過程の分析、日本外交・安保政策、東アジアの国際政治の展開などを研究され、現代国際政治史研究の発展に寄与されました。第3の研究領域は、国際政治分析におけるコンピュータやインターネット利用で、中国の国際紛争行動のモデルとコンピュータ・シミュレーションは『戦争と国際システム』で公刊されています。

田中教授は、国際会議にも数多く出席し、対外発信をされてきました。国内では、「安全保障と防衛力に関する懇談会」委員、国際的には、ASEAN+3 首脳会議の諮問委員会の日本代表委員などを務められ、多くの提言をまとめられました。さらに日本国際政治学会の理事長を務め、本学の理事・副学長として、本学の国際化を推進されました。また、2012年4月に、独立行政法人国際協力機構（JICA）の理事長に就任され、日本の国際協力・対外援助のトップとしてその豊富な学識や経験を援助行政の場に還元されることが期待されています。

田中先生のご受章を心からお喜び申し上げますとともに、今後ますますのご活躍を祈念いたします。

(大学院情報学環／東洋文化研究所 松田 康博)

## 一般ニュース



### 本部学生支援課

### 第64回東京大学・一橋大学対校競漕大会開催される



一般

4月28日(土)、東京大学と一橋大学の対校ボートレースである通称「東商戦」が、一橋大学の主管により戸田オリンピックボートコースにて開催された。本大会は、その由来を明治20年まで遡る伝統のボートレースであり、両校の思い入れもとりわけ強い大会となっている。

初夏を思わせる快晴の空の下、午前から中学生・高校生の招待レース、両校OBによるレース等が行われ、両校応援部の盛大な応援合戦の後、午後からは現役クルーによるオープン戦、対校戦が行われた。

両校応援部、学生、OB達の熱い声援を受けてレースは順調に進み、対校戦の勝敗を決める最終種目である「対校男子エイト」で会場の熱気は最高潮に達した。エイトとは8人のクルーと1人の舵手（コックス）で構成するチームで、2000mを6分強という高速で漕ぎきるボートの花形競技である。健闘及ばず、対校男子エイトは一橋大学が接戦を制し勝利した。東京大学も1人構成の「対抗男子シングルスカル」で勝利し一矢報いたが、他の種目でも一橋大学の健闘が目立った。

終了後の懇親会では、武藤芳照理事・副学長が挨拶され、選手及び大会を支えてきたスタッフやOBへ感謝の言葉を述べられた。両校は健闘を讃え合い、東大クルーは、次回の勝利を誓った。



白熱する対校男子エイト





## 本部留学生・外国人研究者支援課

### 「東京大学外国人留学生特別奨学制度平成24年度4月期研究奨励費受給者証書授与式」を開催

5月23日（水）16時30分より、「東京大学外国人留学生特別奨学制度平成24年度4月期研究奨励費受給者証書授与式」が、第二本部棟国際センター・日本語教育センター会議室で開催された。

本奨学制度（東京大学フェローシップ）は、「大学院において特に優秀な私費外国人留学生に対し研究奨励費を支給することにより、本学での学術研究への取組を支援するとともに、諸外国からの優秀な留学生の受入促進に資する」ことを目的として、平成16年度から実施されているもので、月額20万円あるいは15万円が標準修業年限の最終月まで支給される。

本年度4月期は、修士課程4名、博士課程10名の合計14名の大学院学生が受給者として決定され、受給者に羽田正副学長から受給者証書が手渡された。



受給者証書授与の様子

次いで、羽田副学長から、「受給者の皆さんには、日本人学生、外国人留学生という区別なく東京大学の学生として勉学・研究に励んでいただき、是非その成果を本学へ還元してもらいたい」と激励の言葉があった。引き続き、受給者を代表して人文社会系研究科修士課程テイジュウさん（中国）から、「研究を進めるにあたり、金銭的な理由で大学院への進学をあきらめかけていた私にとって東京大学フェローシップによるサポートは大きな助けとなります。受給者を代表して深く感謝いたします」と感謝の意を表するスピーチがあった。



受給者代表によるスピーチ



平成24年度4月期研究奨励費受給者と関係者

#### <問い合わせ先>

国際部 留学生・外国人研究者支援課生活支援チーム  
内線 22515

# 部局 ニュース



大学院農学生命科学研究科・農学部

附属牧場新築牛舎お披露目会を開催

部局

農学生命科学研究科附属牧場では、5月9日（水）に今年3月に完成した新築牛舎のお披露目会を開催した。

お披露目会には、長澤寛道研究科長をはじめ学内関係者の他に山口伸樹笠間市長、歴代牧場長などが来賓として出席し、新築牛舎とそれに伴い一新された搾乳機、自動給餌機の見学が行われた。その後、先の福島第一原子力発電所の事故により被災し、警戒区域より救出された当场預かりの原種豚（学内広報第1415号で紹介）と当场で生まれた仔豚たちの見学などが行われた。

式典は、あいにくの空模様のため慌ただしいなかでの開催となった。冒頭、塩田邦郎牧場長から、福島第一原子力発電所の事故以来茨城県より放牧自粛の要請が出されたため当场に屋内の飼育設備がなかったことから原乳の出荷を自粛していたこと、この度の新築牛舎完成で乳牛の舎飼可能となったことにより本年5月から原乳出荷を再開したことに加えて、搾乳機・自動給餌機の更新により、一頭一頭に対する適正な給餌によるより最適な栄養管理が行われるようになったことなどが説明された。



新築された牛舎



新築牛舎の前で記念撮影

当场では、乳牛（ホルスタイン種）26頭を飼養しており、従前以上の収入増とともに費用対効果を図り安定した経営に取り組む。また、飼養管理と衛生管理を含めた飼養、搾乳と乳質検査などを体験でき、一層高度で先駆的な教育実習を行う場として、獣医学専修の学生を中心に多くの学生実習に供される。



新築牛舎の説明を聞く出席者

低温センター

平成24年度低温センター安全講習会  
（第一回・第二回）開催

平成24年度低温センター安全講習会（第一回5月10日（木）、第二回5月15日（火）、いずれも15時～16時30分）を、小柴ホールにおいて開催し、学生及び教職員など合計345名が出席した。

講習会では、福山寛センター長（理学系研究科・教授）から、低温センターの紹介と液体寒剤（液体窒素・液体ヘリウム）の物理的性質や自然科学分野での活用例に関する講義があった。続いて、センター技術専門職員から、液体寒剤や高圧ガスボンベの安全な取り扱い方と、本郷地区キャンパス内での各種規程や関連法令の説明があった。液体窒素の汲出しと窒素高圧ガスボンベの使い方の実演もあり、参加者一同興味深く見入っていた。



本安全講習会は、高圧ガス保安法で義務付けられている保安教育の一環であり、本郷地区キャンパス内で寒剤を取り扱う者は必ず受講することが義務づけられている。今後も学内各部局の協力を得て、使用者が液体寒剤の性質を理解し安全な取り扱いを習得するよう、鋭意取り組んでいきたいと考えている。なお、今年度第3回目の安全講習会は10月～11月に開催予定である。



小柴ホールでの講習会風景



福山センター長 講義



液体窒素 汲出し実演

大学院新領域創成科学研究科、物性研究所、大気海洋研究所、宇宙線研究所、カブリ数物連携宇宙研究機構  
**「柏キャンパス in 駒場」開催報告**

柏キャンパスにある、大学院新領域創成科学研究科、物性研究所、大気海洋研究所、宇宙線研究所、カブリ数物連携宇宙研究機構の5組織の協力のもとに、5月12日(土)の午後、1・2年生のための交流イベントとして、「柏キャンパス in 駒場」(素粒子、生命から地球、宇宙への旅)が初めての試みとして開催された。

本学の三極構造の一翼を担う柏キャンパスは、学融合を目指した最先端科学の研究と大学院での教育を使命としているが、駒場の1・2年生にとっては、あまり馴染みがないと言えよう。しかし、若く柔軟な頭脳をもつ1・2年生が、自らの大学院修士課程修了までの6年間ないし、博士課程修了までの9年間の生活やその後のキャリアパスを考えていく上で、本学のもつ広範な最先端科学の研究・教育の広がりを認識し、進むべき道を考えていくことは重要であると考えます。本イベントはそのような駒場の1・2年生の手助けになることを期待して企画された。

幸い、上記5組織の全面的な協力が得られ、本学が誇る研究者としても一流の各組織トップの教員による講演が行われた。

- (1)「人工生命への挑戦」  
新領域創成科学研究科 上田 卓也 研究科長
- (2)「物性科学と物性研究所」  
物性研究所 家 泰弘 所長
- (3)「大気・海洋の謎に挑む」  
大気海洋研究所 新野 宏 所長
- (4) 柏キャンパス紹介ポスターセッション
- (5)「ニュートリノ・重力波・宇宙線で宇宙を探る」  
宇宙線研究所 梶田 隆章 所長
- (6)「宇宙は何でできているのか」  
カブリ数物連携宇宙研究機構 村山 斉 機構長

いずれも、最先端科学研究の現状と将来展望について、科学の夢を広げるとともに、初心者にも分かりやすい講演であった。

駒場の1・2年生等からは55名の参加があり、総参加者数は95名となった。ポスターセッションや講演後の質問も活発に行われ、参加者の評判も良く、有意義なイベントとなった。柏キャンパスの部局を越えた交流という意味でも意義は大きかったと言える。柏キャンパスの研究・教育活動を盛り上げるためにも、継続的な努力をしていきたい。

ご協力いただいた柏キャンパス各組織の関係各位に、感謝いたします。



最先端の科学に触れてみよう！ 駒場で開催 

東大新入生・2年生のための交流イベント

# 素粒子、生命から 地球、 宇宙への旅

## 柏 キャンパス in 駒場

**DATE** 2012年  
5月12日(土)  
13:00-18:00

**PLACE** 東大駒場第1キャンパス  
数理科学研究科大講義室

ENVIRONMENT, ENERGY, MATERIALS, BIOSCIENCE, GENOME

DEAN T. UEDA

SUPERCONDUCTIVITY, MAGNETISM, NANO-SCIENCE

DIRECTOR Y. IYE

ATMOSPHERE, OCEAN, MARINE LIFE SCIENCE

DIRECTOR H. NIINO

Director T. KAJITA

COSMIC RAY, NEUTRINO, SUPER-KAMIOKANDE, GRAVITATIONAL WAVE

参加申し込み

www.k.u-tokyo.ac.jp/kashiwa-in-komaba

定員300名

PHYSICS, MATHEMATICS, UNIVERSE

Director H. MURAYAMA

IPMU

**PROGRAM**

12:30 受付開始  
13:00-13:10 開会挨拶  
13:10-13:50 大学院新領域創成科学研究科 研究科長 上田 卓也  
「人工生命への挑戦」  
13:50-14:30 物性研究所 所長 塚本 肇  
「物性科学と物性研究所」  
14:30-15:10 大塚加群研究所 所長 加群 敏  
「大塚・加群の夢に憧れ」  
15:10-16:10 柏キャンパス紹介ポスターセッション  
16:10-16:50 宇宙線研究所 副所長 藤田 龍彦  
「ニュートリノ・重力波・宇宙線で宇宙を震らす」  
16:50-17:30 カブリ動物圏探宇宙研究機構 (カブリIPMU) 副所長 若山 青  
「宇宙は育でできているのか」  
17:30-17:50 まとめ、閉会挨拶

【柏キャンパスin駒場】(素粒子、生命から地球、宇宙への旅)

「柏キャンパス in 駒場」ポスター



参加者集合写真（駒場・数理科学研究科大講義室）

熊野純彦副研究科長による司会のもと、冒頭に中地義和人文社会系研究科長から開会の挨拶があり、本研究科の最近の活動が報告され、本講座への期待が語られた。

設楽教授による講義は、縄文時代、弥生時代の動物形土製品に表現されている動物の変化を通して、縄文人や弥生人の動物観、ひいては彼らの生活や思想の変化を浮き彫りにするもので、専門学生ではない参加者にも分かりやすいように工夫されていた。

小学生から80代の方まで老若男女、考古学に関心のある幅広い方々に来場いただいた。予想をはるかに上回る220名の参加者をお迎えしたため、急遽隣室で講座の様子を投影した。質疑応答でも熱心な質問がいくつも出され、大盛況であった。聴衆の7割の方からアンケートをいただき、次回以降の公開講座への期待の声が数多く寄せられた。中には、小学生からの回答もあり、絵入りで「さいしょは大人ばかりでむずかしいのかと思ったけど先生の話で、すきになって（じょうもんじだいやイノシシ）しまいました。ありがとう!」と嬉しい内容であった。

次回の第3回文学部公開講座は、本年秋の開催予定。なお、北見市での公開講座は10月5日（金）に開催される。



考古学への関心・好奇心で溢れる会場

### 大学院人文社会系研究科・文学部

#### 第2回東京大学文学部公開講座を開催

大学院人文社会系研究科・文学部では、5月12日（土）の14時から本郷キャンパス法文2号館において第2回東京大学文学部公開講座を開催した。今回のテーマは「縄文人と動物たち」、講師は本研究科基礎文化研究専攻の設楽博己教授（考古学）が務めた。

本公開講座は、平成12年より文学部考古学実習施設のある北海道北見市で開催している「東京大学文学部常呂公開講座」を、より多くの方に参加いただき、社会連携をより一層深めるために、本郷キャンパスでも昨年より開始したものである。



参加者の質問に熱心に耳を傾ける設楽教授



5月17日（木）18時から、山上会館1階談話ホールにて法学政治学研究科総合法政専攻の新生歓迎会および法学政治学研究科による外国人留学生等との懇談会があわせて開催された。

ゲストの学生、客員研究員、チューター、教職員等、総勢101名が出席し、熱気あふれるパーティとなった。

高原明生教授（総合法政専攻長）の司会進行で、山口厚研究科長の挨拶、西川洋一副研究科長による乾杯の後、歓談に入った。

宴たけなわになった頃、学生の代表として法学部4年生のバイガルマー・ツォファーさん（モンゴル出身）が、「ビエルゲー」という曲に合わせてモンゴル舞踊を披露した。次に、総合法政専攻博士課程1年生の出川永さんが、留学先から帰国した後の心境の変化と研究活動への心構えを披露した。最後に、総合法政専攻修士課程1年生の洪兆承さん（台湾出身）が、アルゼンチン・タンゴの名曲「Por Una Cabeza（ボル・ウナ・カベサ）」をバイオリンで演奏し、3人のパフォーマンスに対し会場は拍手喝采で盛り上がった。

新入生たちは、新しい環境に早く打ち解けようと積極的に交流し、いつも学業に忙しい留学生たちも、この日ばかりは教員や友人と大いに親睦を深め、20時の中締め後も名残惜しそうに歓談していた。



出川さん、洪さん、山口研究科長、高原教授、バイガルマーさん



法学部4年バイガルマーさん（左）、博士1年出川さん（中央）、修士1年洪さん（右）

大学院経済学研究科・経済学部では5月18日（金）の午後に、社会科見学として東京証券取引所を訪問した。参加者は留学生33名（学部生5名、修士24名、博士2名、交換留学生2名）及び引率の職員5名の計38名であった。

現地では、英語のガイドつきの館内見学ツアーに参加した。初めに東証案内ビデオ（英語版）を見た後、2階ギャラリーで東証アローズの説明を受けた。証券取引も、現在ではすべて電子媒体で行われているが、1991年以前はすべて指文字とジェスチャーで行われていたそうで、ガイドからクイズ形式でその一部の手ほどきを受けた留学生たちは、興味深そうに再現していた。その後、1人1台のコンピュータによる模擬売買を体験し、赤字を記録した留学生もいれば堅実な取引を行った留学生もいた。30分間ではあったが、有意義な時間を過ごすことができた。

また、留学生懇談会を5月30日（水）18時から東大病院入院棟15Fの上野精養軒ブルークレールにおいて開催した。学内での開催ということもあり、当日飛び入りで参加した教員もあり、最終的には15名の教員が参加し、留学生は在学生69名のうち50名近くが参加し、大変賑やかな会となった。

国友直人研究科長のオープニングメッセージから始まり、馬場哲研究科主任の乾杯の発声後、歓談を経て、各専攻代表の教員からのショートメッセージと、3人の留学生からスピーチが行われた。窓からはライトアップされた東京スカイツリーの美しい姿も眺められ、参加者全員が美味しい食事と交流を堪能した後、青木浩介准教授（留学生担当）のクロージングメッセージで、懇談会は無事終了した。

留学生たちは毎年の留学生向けイベントを心待ちにしているようで、今回も学年や専攻を超えた交歓を満喫していた。



社会科見学：東京証券取引所にて記念撮影



留学生懇談会：乾杯の直前



留学生懇談会：新入生と歓談中

#### 史料編纂所

### 日露関係史料をめぐる国際研究集会を開催

5月21日（月）、史料編纂所では、ロシア・サンクトペテルブルク市から研究者を招聘し、日露関係史料をめぐる国際研究集会を開催した。研究集会は日本学士院（久保正彰院長）と共催し、同院のUAI関連・未刊行在外日本関係史料の調査事業の一環として行われた。

通算12回目となるこの研究集会では、以下の3報告があった。第1報告は、ロシア国立海軍文書館セルゲイ・チェルニャフスキー館長による「ロシア国立海軍文書館史料にみられる海軍専門用語について」である。報告には詳細な海軍用語集が添付され、遅れて創設されたロシア海軍がさまざまな外来の術語を取り入れていったことが紹介された。さらに19世紀当時の航海日誌の様式とその変化について追加報告があった。

第2報告はロシア国立歴史文書館アレクサンドル・ソコロフ館長による「ヤルトロフスク市保存フォンド保管センターから返還されたロシア国立歴史文書館史料について」である。核戦争の危機にあった1960年代末、当時のソ連は国内の文書館が所蔵する貴重史料の一部をシ

ベリアへ疎開させた。これが近年原蔵館に復帰しており、歴史文書館では元老院文書を中心に書架に換算して4.3km分の史料群が戻ってきたという。報告は「唯一無二」の貴重な原本史料の内容を紹介し、その活用による可能性を示すものになった。

第3報告は、ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所ワジム・クリモフ上級研究員が「1862年の日本使節団—ドイツからロシアへの旅」と題し、現地の史料を用い、文久期の竹内使節団がドイツ・ベルリンから海路クロンシュタットをへてサンクトペテルブルクへ到達する道筋を詳細に明らかにした。荒れるバルト海で使節が口にしたのは日本から持参した米を炊いた秘伝のおかゆだったという。

研究集会の終了後、ロシア研究者の一行は、プロジェクト代表の保谷徹教授らの案内で戸田造船郷土資料博物館（沼津市）を訪問し、幕末のロシア使節プチャーチンの足跡を追って下田市の史跡や博物館を見学した。



研究集会におけるソコロフ館長の報告と通訳するクリモフ研究員



戸田造船郷土資料博物館で熱心に展示を見学する一行。1854年12月、安政東海地震の津波により乗艦ディアナ号が大破（回航中に沈没）、プチャーチンは戸田に滞在して代船（ヘダ号）の建造を待った



大学院教育学研究科・教育学部では、5月23日（水）に留学生懇談会を開催した。留学生12名、教職員28名、日本人学生15名の計55名が出席した。

高橋美保准教授（国際交流委員会委員）の司会で進行し、冒頭の市川伸一研究科長による開会の挨拶では、今年も新入留学生を迎え留学生懇談会を開催することが出来た喜びが語られた。

続いて、今年度新しく国際交流委員会委員に着任した高橋美保准教授、村上祐介准教授、森田賢治講師の3名を含む国際交流委員5名から自己紹介があった。恒吉僚子教授（国際交流委員会委員長）による乾杯の後、歓談を挟んで、4月から研究科に仲間入りした新入留学生6名の自己紹介が行われた。来日して数カ月の留学生から既に日本で数年間生活している留学生までそれぞれが、出身、研究テーマ、将来の抱負などを、明るく、思い思いに語った。



自己紹介をする新入留学生

歓談に続き、国際交流室のチューターの自己紹介が行われた。今年度はチューターの公募に例年以上の応募があり、6名の新しいチューターを含む12名が、チューターとして国際交流室のイベント、留学生、日本人学生のサポートにあたる。また、司会の高橋准教授から国際交流室で予定されている3つの国際交流イベントについても紹介がなされた。



自己紹介をする国際交流室チューター

新学期ということもあり、新入留学生の他にも初めて留学生懇談会に参加する教職員、日本人学生もおり、新入留学生の歓迎と共に、留学生、教職員、日本人学生がリラックスした雰囲気の中、お互いに親交を深める良い機会となった。

川本隆史副研究科長による閉会の挨拶では、「留学」の歴史を通してアジア各国が切磋琢磨してきたことを踏まえ、研究科へ新しく入った留学生達へ歓迎と励ましのメッセージが送られた。



チューター、恒吉国際交流委員長、新入留学生達

東洋文化研究所は、日本・アジアに関する教育研究ネットワーク（ASNET）と共催で、毎週木曜日の夕方に東文研の1階ロビーで東文研・ASNET 共催セミナーを開催している。本セミナーは、本学に所属する、広くアジア研究に携わる若手研究者などに発表と学術交流の場を提供することを目的とし、2010年5月に始まり、2年を経た2012年5月24日（木）に50回目を迎えた。

本セミナーでは、本学の若手研究者や外国人訪問研究者、日本学術振興会特別研究員などをお招きし、日頃の研究や在外研究の成果や、刊行された著書について30分ほど発表していただき、その後、活発に議論を行って

いる。アジア研究を共通項に、様々な分野・国籍の研究者が集い、報告者・参加者双方にとって、新たな研究の視点を発見できる、貴重な学術交流の場となっている。

記念すべき第50回は、寺田悠紀氏（日本学術振興会特別研究員）に「イランにおける現代美術－美術館が映し出す継続性」と題してお話いただいた。テヘラン現代美術館のコレクションと展示のスライドを交えつつ、イランにおける現代美術の継続性について発表があり、続いて、参加者を交えて活発な議論が行われた。その後、簡単なパーティーが開かれた。

今後も本セミナーは毎週木曜日の夕方、東洋文化研究所1階ロビーで開催していく予定である。

詳しい開催案内は、東洋文化研究所ホームページ (<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp>) 及び ASNET のホームページ (<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp>) に掲載している。



第50回東文研・ASNET共催セミナー（5月24日）の風景



セミナー後の記念パーティーの様子

大学院農学生命科学研究科・農学部  
「第三回放射能の農畜水産物等への影響についての研究報告会」が開催される

5月26日（土）13時から安田講堂において、「第三回放射能の農畜水産物等への影響についての研究報告会」が開催された。

今回は、新たな試みとして、Ustreamによる報告会の模様のライブ配信及びTwitterによる質問の受付などを試行で行った。

当日は好天の中、約400名の参加者が来場した。研究報告会は、長澤寛道研究科長の開会の辞から始まり、各研究報告が行われた。

まず、中西友子教授より「農学生命科学研究科全体の取組について」の報告があり、当研究科の震災復興支援に関わる取組について、述べられた。次に福島県農業総合センター作物園芸部 佐藤誠 稲作科長より「水稲における放射性セシウムの吸収解析と低減対策」について報告があり、福島県の取組について、述べられた。

続いて、森田茂紀教授から「被災農地の農業再生のデザイン－資源作物の栽培とエネルギー化」について、藤原徹教授から「福島水田におけるイネのセシウム吸収の品種間差」について、溝口勝教授から「自然凍結融解を利用した農地除染の試み」について、眞鍋昇教授から「警戒区域内で原発事故後105日間飼養された原種ブタの生殖機能について（中間報告）」、金子豊二教授から「海水魚のエラからセシウムが排出される」について、高田大輔助教から「事故当年にモモ樹体内に移行した放射性核種の本年度の動態」について、細野ひろみ准教授から「放射性物質と食の安全を市民はどう捉えたか」について、各々の報告が行われた。

最後に長澤研究科長の閉会の挨拶をもって、会は盛況のうちに終了した。



長澤研究科長による挨拶





研究報告を聞く参加者

This month's

# Todai Research

<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/todai-research/>

東大の研究紹介サイト「Todai Research」の情報をお知らせします。興味のある記事はありましたか？ぜひ、サイトをご覧ください！

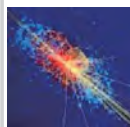
Todai Research で検索 

## ピックアップ！ インパクトランキング

Todai Researchは開始から半年が過ぎ、いっちょまえに記事のランキング企画ができるようになりました！今回は、記事掲載直後のTodai Researchへのアクセス数が、飛びぬけて高かった3つの記事を、ランキング形式でご紹介します！

インパクト  
第1位

2011/12/12 理学系研究科  
**LHC実験の最新結果について**



堂々の第1位は、かなり専門的な内容でした。「何故ものには質量があるのか？」という根源的な謎の答え“ヒッグス粒子”を探すLHC実験は、CERNというスイスの研究所で行われています。この国際的な大規模実験には、もちろん東大チームも参加しています。昨年12月、最新結果を報告する会見がCERNで開催されたのに合わせ、同時刻に東大でも会見を行いました。本記事はその時に出した告知記事です。掲載当日に1300件を超えたアクセス数にも、注目の高さが現れています。ちなみに、LHC実験での東大チームの活躍は、2012年1月掲載のFeature Storyでも特集しています。

第2位

2012/2/21 教育学研究科  
**繰り返し運動の習得に「よく見る」ことは逆効果**

周期運動の誤差情報を処理する脳内メカニズムが明らかに



ボート漕ぎやバスケットボールのドリブル等の繰り返し運動の習得には、なんと、「たまに見るのをやめる」ことが効果的だという直感に反する研究成果が得られました。情報が多すぎると脳が処理しきれなくなるのだそうです。

第3位

2012/5/17 医学系研究科  
**育つ環境が賢さに影響を及ぼす**  
刺激の多い環境下での記憶・学習能力の向上にKIF1Aが不可欠



運動やコミュニケーションなどの刺激が多い環境に育ったマウスは、そうでないマウスに比べて賢いそうです。脳の中では、どのような変化が起きているのでしょうか？神経細胞間の情報の「運び屋」KIF1Aタンパク質が鍵でした。

P28に全文をご紹介します [P28へGO!](#)

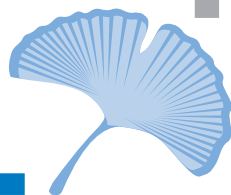
過去の記事は、[Highlight](#)>[Research Highlights](#) 又は [Archive](#)から、いつでも読むことができます。ぜひチェックしてみてください！

ご意見・お問い合わせはこちらまで

Mail: [kouhoukikaku@ml.adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:kouhoukikaku@ml.adm.u-tokyo.ac.jp) Ext: 21045  
東大ポータル > 便利帳 > 総合企画部 > 広報課

<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/todai-research/>

# キャンパス ニュース



## 本部学務課

平成 24 年 5 月 1 日現在学生数

—学部学生 14,018 人、大学院学生 13,624 人、研究生等 612 人—

本学では、毎年 5 月と 11 月の年 2 回、同月 1 日現在の学生数を調査し「学内広報」に掲載している。本年 5 月 1 日現在の学生数は次のとおりである。  
なお、標題の「研究生等」とは学部研究生、学部聴講生、大学院外国人研究生、大学院研究生、大学院特別研究学生及び大学院科目等履修生の合計である。

### 平成 24 年 5 月 1 日現在 学部学生・研究生・聴講生数調

種別	在籍者													在籍者のうち、 外国人学生及び休学者 (再掲)						研 究 生			研究生のうち 外国人 (再掲)			聴講生					
	入進学 年度別		平成24年度		平成23年度		平成22年度 (以前)		平成21年度		平成20年度 以前		小 計		合計	外国人学生			休 学 者			研 究 生			研 究 生 外国人 (再掲)			聴講生			
	学部・課程別	性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
前期課程・教養学部		2,607	544	2,565	589	229	34					5,401	1,167	6,568	99	69	168	20	3	23			—			—			—		
後 期 課 程	法学部		317	101	346	70	146	33				809	204	1,013	10	7	17	15	4	19			—			—	9	5	14		
	医	医学科		85	27	93	18	84	16	85	17	16	2	363	80	443	7	2	9	10	2	12	14	7	21	1		1		—	
		健康総合科学科		7	14	16	10	4	4					27	28	55	0	2	2	2	0	2									
	工学部		895	99	882	98	170	6					1,947	203	2,150	60	15	75	48	4	52	11	5	16			2	2	8	4	12
	文学部		269	86	262	100	144	46					675	232	907	9	6	15	55	26	81	3	1	4			0			—	
	理学部		257	29	260	36	31	2					548	67	615	14	2	16	10	2	12	2		2	1	1	3		3		
	農学部		175	54	179	66	43	2					397	122	519	9	1	10	8	2	10	4	2	6	1		1			0	
			17	15	20	13	17	15	17	16	0	0	71	59	130	0	0	0	1	0	1			0			0			—	
	経済学部		285	65	282	60	70	9					637	134	771	13	10	23	25	5	30			—			—	1		1	
	教養学部		118	51	113	67	60	23					291	141	432	6	10	16	20	7	27	1	1	2			1	1	17	10	27
	教育学部		63	36	66	35	16	9					145	80	225	2	2	4	1	3	4	1	1	2			0			—	
	薬学部		68	17	59	19	1	0					128	36	164	2	5	7	0	0	0	1	1	2			1	1		0	
			1		2	8	4	3	6	2	0	0	13	13	26	1		1	0	0	0			0			0				0
小計		2,557	594	2,580	600	790	168	108	35	16	2	6,051	1,399	7,450	133	62	195	195	55	250	37	18	55	3	4	7	38	19	57		
合計		5,164	1,138	5,145	1,189	1,019	202	108	35	16	2	11,452	2,566	14,018	232	131	363	215	58	273	37	18	55	3	4	7	38	19	57		

- 備 考) 1. 農学部の上段は獣医学課程を除く各課程の合計数を、下段は獣医学課程の数を示す。  
2. 薬学部の上段は薬学科(6年制)を除く合計数を、下段は薬学科(6年制)の数を示す。  
3. 平成22年度(以前)の欄については、医学部医学科・農学部獣医学課程・薬学部薬学科(6年制)は平成22年度入学者のみ、他の学部学科は平成22年度以前の入学者数を示す。



## 平成24年5月1日現在 大学院学生・研究生・外国人研究生数調

研究科等名	種別	在籍者																				在籍者のうち 外国人学生（再掲）				在籍者のうち 休学者（再掲）				大学院 外国人 研究生			大学院 研究 生			特別 研究 学生					
		修士及び専門職学位課程										博士課程										修士(専門職学位) 課程		博士課程		修士(専門職学位) 課程		博士課程		男	女	計	男	女	計	男	女	計			
		24年度		23年度 (以前)		22年度 以前		小計		計	24年度		23年度		22年度		21年度 以前		小計		計	計	計	計	計	計	計	計	計										計		
		男	女	男	女	男	女	男	女		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女										男	女	男	女	男	女	男	女	男		女	男
人文社会系		75	40	65	57	42	22	182	119	301	51	39	42	33	40	35	131	96	264	203	467	768	13	33	29	47	122	30	17	93	64	204	11	25	36	7	5	12	1	0	1
教育学		52	39	39	42	11	7	102	88	190	21	26	25	26	22	25	53	65	121	142	263	453	1	12	7	34	54	7	5	42	38	92	1	5	6	0	3	3	0	4	4
法学	総合法政	14	5	11	13	0	1	25	19	44	9	4	12	7	6	6	15	23	42	40	82	126	10	16	16	21	63	0	1	4	15	20	9	8	17	0	0	0	1	1	2
政治学	法曹養成	[169]	[60]	[143]	[84]	[57]	[42]	[369]	[186]	[555]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	[555]	[2]	[6]	-	-	[8]	[6]	[8]	-	-	[14]	-	-	-	-	-	-	-	-	-
経済学		59	15	58	15	14	3	131	33	164	28	4	17	5	13	2	31	12	89	23	112	276	27	20	9	3	59	7	3	30	14	54	1	1	2	2	0	2	1	0	1
総合文化		131	108	153	94	34	45	318	247	565	89	46	79	59	91	47	198	171	457	323	780	1,345	26	41	57	89	213	24	32	134	119	309	13	20	33	9	9	18	5	6	11
理学系		284	59	281	65	36	9	601	133	734	142	19	153	23	132	24	59	31	486	97	583	1,317	21	11	32	14	78	13	6	13	7	39	4	5	9	5	2	7	6	1	7
工学系		770	94	832	134	203	50	1,805	278	2,083	148	26	253	71	272	61	230	76	903	234	1,137	3,220	260	116	374	152	902	67	9	57	23	156	60	11	71	10	5	15	15	6	21
	原子力	[13]	[1]	[0]	[0]	-	-	[13]	[1]	[14]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	[14]	[0]	[0]	-	-	[0]	[0]	-	-	[0]	-	-	-	-	-				
農学生命科学	農学	194	76	196	81	32	12	422	169	591	61	35	94	48	71	54	40	28	266	165	431	1,022	32	31	66	87	216	17	3	12	11	43	7	2	9	4	4	8	7	11	18
	獣医学	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	6	6	5	15	10	15	7	50	30	80	80	-	-	10	11	21	-	-	1	0	1	0	2	2	2	3	5	0	2	2
医学系	医学	-	-	-	-	-	-	-	-	-	135	64	139	66	131	63	116	50	550	258	808	808	-	-	28	25	53	-	-	30	21	51	5	3	8	1	0	1	12	4	16
	保健学	12	22	13	26	3	12	28	60	88	5	22	4	16	12	25	3	21	24	84	108	196	8	14	9	25	56	2	8	1	9	20	1	2	3	2	3	5	0	0	0
	医科学	14	9	15	7	0	1	29	17	46	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	46	3	1	-	-	4	1	0	-	-	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	公共健康医学	[16]	[14]	[9]	[11]	[1]	[1]	[26]	[26]	[52]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	[52]	[2]	[2]	-	-	[4]	[0]	[0]	-	-	[0]	-	-	-	-	-	-	-	-	
薬学系	薬科学	75	21	77	26	5	3	157	50	207	35	4	42	15	46	14	12	1	135	34	169	376	14	4	10	8	36	4	1	2	1	8	2	6	8	3	0	3	0	5	5
	薬学	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	-	-	-	-	-	-	3	2	5	5	-	-	0	1	1	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
数理科学		46	0	49	1	8	1	103	2	105	20	0	20	1	23	0	5	0	68	1	69	174	7	1	9	0	17	2	0	1	0	3	0	0	0	1	0	1	1	0	1
新領域創成科学		320	101	315	105	65	29	700	235	935	82	25	117	37	109	41	85	34	393	137	530	1,465	58	48	79	44	229	19	11	20	14	64	10	9	19	1	2	3	3	0	3
情報理工学系		204	10	202	10	32	5	438	25	463	40	6	51	4	76	8	51	1	218	19	237	700	55	12	77	9	153	15	1	16	0	32	9	4	13	3	1	4	15	0	15
学際情報		59	21	44	41	13	24	116	86	202	18	9	25	13	20	16	41	34	104	72	176	378	19	31	23	33	106	6	5	20	20	51	6	15	21	0	0	0	0	1	1
公共政策学		[69]	[13]	[85]	[36]	[25]	[20]	[179]	[69]	[248]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	[248]	[32]	[23]	-	-	[55]	[7]	[1]	-	-	[8]	-	-	-	-	-	-	-	-	
合計		2,309	620	2,350	717	498	224	5,157	1,561	6,718	897	337	1,079	429	1,079	431	1,118	667	4,173	1,864	6,037	12,755	554	391	835	603	2,383	214	102	476	356	1,148	139	118	257	50	37	87	67	41	108

- 備考) 1. 専門職学位課程は、〔 〕書きで示し外数である。  
2. 農学生命科学研究科、医学系研究科、薬学系研究科の下段学生数は、平成20年度以前の入学者を示し、外数である。  
3. 修士及び専門職学位課程の23年度（以前）の欄については、工学系研究科原子力専攻は平成23年度以前の入学者、他の研究科（教育部）の専攻は平成23年度入学者を示す。  
4. 大学院研究生、特別研究学生欄の（ ）内は、外国人を示し内数である。  
5. 外国人学生には在日外国人を含む。  
6. 大学院科目等履修生の数  
教育学研究科の大学院科目等履修生（37人）、法学政治学研究科（法曹養成）の大学院科目等履修生（10人）、工学系研究科の大学院科目等履修生（0人）、薬学系研究科の大学院科目等履修生（0人）、情報理工学系研究科の大学院科目等履修生（1人）、公共政策学教育部の大学院科目等履修生（0人）  
7. 情報学環教育部研究生（106人）





# ひょうたん島通信

大槌発！

第6回

岩手県大槌町の大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センターのすぐ目の前に、蓬莱（ほうらい）島という小さな島があります。井上ひさしの人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルともされるこの島は、「ひょうたん島」の愛称で大槌町の人々に親しまれてきました。ひょうたん島から毎月、沿岸センターと大槌町の復興の様子をお届けします。

## インターネットの先にある被災地の日常「ひょうたん島ライブモニタリング」

齋藤 馨（新領域創成科学研究科自然環境学専攻教授）

毎日正午、波音に混じって「ひょっこりひょうたん島」の時報放送がインターネットから聞こえてきます。昨年5月に沿岸センターの屋上にマイクを設置して始めた「大槌サウンドスケープ配信」です。震災により浜から離れざるをえない大槌町の方々に原風景である浜の自然の音を届けようと、遠隔地にある森林のライブ音を拾って森の中のようすを観察するわれわれの「サイバーフォレスト研究」を応用したものです。

マイクを設置した当初は、被災地からは人が少なくなっていましたので、波音やカモメなどの自然音に混じって日中は瓦礫を撤去する重機の音だけが聞こえていました。7月の夜にはシュレーゲルアオガエルの合唱に驚きました。冒頭に記した正午と6時、18時に毎日行われていた時報放送は8月1日に復活

しました。また月命日である11日の地震発生時刻には毎月黙祷サイレンが響きわたり、胸が締め付けられる思いでした。そして、被災から1周年にあたる2012年3月11日には赤浜地区で行われたイベントのようすも聞こえ、いまでは早朝に漁船の往来するエンジン音が聞こえるようになってきました。このように被災地に思いをめぐらせてライブ音を聞いていると、自然の営みと復興のようすが生々しく伝わってきます。

この間に、webカメラと気象センサー（東京大学も参加している「Live E!」により開発されたデジタル百葉箱です）も設置し、音と映像、そして温湿度や雨量風向風速といった気象データからなる大槌の自然環境と復興のようすをライブ配信しながらアーカイブ記録する「ひょうたん島ライブモニタリング」シ

ステムの構築を進めています。2012年6月には海中マイクを設置し水中音も配信する予定です。ご期待ください。

「大槌サウンドスケープ配信」と「ひょうたん島ライブモニタリング」を通じて、大槌の日々の自然と復興の気配を遠隔地にいても感じることができます。今後もライブ配信と記録を継続し、被災と復興の営みをわれわれの記憶に残していきたいと考えています。



沿岸センター屋上に設置されたマイク



背景写真：大槌川の海鳥たち

### 【PC、スマートフォン用コンテンツ】

\*一部環境によっては再生できないこともあります

- ① 大槌サウンドスケープ配信  
(mp3ファイルへの直リンク)  
[http://mp3s.nc.u-tokyo.ac.jp/OTSUCHI\\_CyberForest.mp3](http://mp3s.nc.u-tokyo.ac.jp/OTSUCHI_CyberForest.mp3)
  - ② ひょうたん島ライブモニタリング  
(プロジェクト紹介webページ)  
[http://cf4ee.nenv.k.u-tokyo.ac.jp/drupal6/?q=otohama\\_live\\_j](http://cf4ee.nenv.k.u-tokyo.ac.jp/drupal6/?q=otohama_live_j)
- \*②のページ内に「①大槌サウンドスケープ配信」へのリンクがあります。上記の直リンクから再生できない場合はこちらをお試しください。



国際沿岸海洋研究センター専門職員・川辺幸一です。2月から大槌町勤務に戻りました。釜石市から提供を受けた仮設住宅に住み、そこから大槌町中央公民館内にある復興準備室に通動しています。

## ◆スポーツの力で日本を元気に！ — 自由への疾走 Are You Gonna Go My Way —

大槌町で、5月30日に「チャレンジデー 2012」が開催されました。この「チャレンジデー」、聞きなれない方がほとんどかと思いますが、毎年5月の最終水曜日に世界中で実施されている住民参加型のスポーツイベントです。人口規模がほぼ同じ自治体同士が対戦し、15分以上継続してさまざまな運動やスポーツをした住民の「参加率」を競い合います。敗れた自治体は、相手自治体の旗を庁舎のメインポールに1週間掲揚し相手の健闘を称える……と、いうものです。大槌町では2005年より連続してこのイベントを実施してきました。昨年は震災の影響で実施を見送りましたが、今年は初参加の兵庫県神戸町と対戦しました。結果は、「大槌町：参加率57.4%、神戸町：参加率51.9%」で見事に大槌町の勝利！

このようなイベントは仮設住宅にお住まいの方々の運動不足解消になりますし、いい交流の機会にもなったのではないのでしょうか。今後このようなイベントが行われて、町が活気づきかけとなればいいですね。



ゴミの量と種類により得点を競うスポーツゴミ拾い

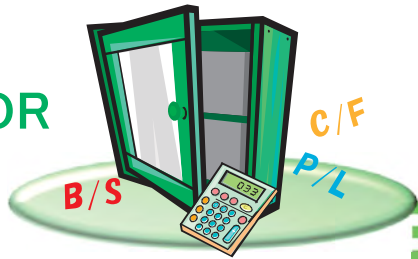


仮設住宅の前でラジオ体操。参加率としてカウントされます



# 決算のDOOR

～数字が語る  
東京大学



## 第21回 は～い、並んで並んで

世の中にはありとあらゆる配列が存在します。日本語の五十音図、元素の周期表、遺伝子の塩基配列、コンピュータのプログラミング言語、キーボードの文字配列から、果ては姓名判断の陰陽配列に、ロト6の黄金配列表（ハ、チョット違ウカ）などなど。それぞれ独立した一つの存在が、一定の規則の下で順序良く整然と並べられることで、新たな意味のあるカタチになるのです。

さてさて、会計の世界の配列は財務諸表にあり。原則は「重要なものほど上位に」です。まずは貸借対照表（balance sheets）から。期末決算時の財政状況を示すこの表は、資産、負債、資本の3つの区分に属する勘定科目の集合体です。民間企業の場合、身軽な勘定科目ほど上位を占めます。例えば資産は、現金預金を筆頭に売掛金、受取手形、有価証券などの換金しやすい流動資産が軽やかに前へ。負債は支払手形、買掛金、未払金などで返済が早い流動負債が先頭。対する国立大学法人は、動きの遅い科目からのっそりと並びます。資産では土地・建物・機械装置など、使用期間が長く、換金性の低い固定資産が上位。負債では、一年以内に返済する借入金より1年を超えて返済する借入金（固定負債）が先です。

これは、民間企業の場合、投資家や融資先などの利害関係者がお金の動きを重要視するのに対し、国立大学法人では、土地・建物などの固定資産が主な財産であり、教育・研究活動の経済的基盤として重要視されていることが理由です。前者を「流動性配列法」、後者を「固定性配列法」と呼び、私立学校や東京ガス株など一部の特殊企業も国立大学法人同様「固定性配列法」を用います。ちなみに海外では、ハーバード大学は「流動性配列法」、ロンドン大学は「固定性配列法」を採用していますが、これはお国柄でしょうか？

お次は損益計算書（profit - and - loss statementが一般的。でも国立大学は operating - statementのほうが近い、かな？）。1年間の運営状況を表すこの表は、収益と費用の勘定科目で成り立ちます。民間企業にとって儲けは命。そして費用は儲けを生み出すための原価にすぎません。そのため収益は費用の上位に常に位置します。一方、国立大学法人はまたもやその逆。というのも、国立大学法人の使命は「中期計画」「年度計画」で国民のみなさまとお約束した業務を果たすこと。それを行なうためにかかるのが費用、そして、運営費交付金、授業料など業務を実施するための財源となるのが収益です。お約束を果たすために活動すれば費用が発生。そのため、費用は常に収益より上位に位置し、さらに教育経費、研究経費、診療経費…と目的順に整列です。

さあ、23年度の財務諸表がいよいよ公表されます。総資産額1兆3370億、総負債額2654億、当期計上費用2093億、当期計上収益2172億…詳細は是非ご自分の目で。併せて国立大学法人特有の配列の妙をご堪能ください。（青）



[HOME > 東京大学案内 > 財務情報をクリック！](#)

本部財務部決算課 （内線22126）

E-mail: [kessanka@ml.adm25.u-tokyo.ac.jp](mailto:kessanka@ml.adm25.u-tokyo.ac.jp)

◆このコラムは一見複雑な国立大学法人会計をわかりやすくご紹介することを目的とし、文章の読みやすさを重視しているため、ある程度恣意的な表現を取ることがあります。あらかじめご了承ください。一ご意見、ご質問お待ちしております！

# インタープリターズ・ バイブル

vol. 59



科学技術インタープリター養成プログラム

## なぜだろう、なぜかしら リニューアル編

廣野 喜幸

総合文化研究科 准教授  
教養学部附属教養教育高度化機構  
科学技術インタープリター養成部門

すぐれた副読本は科学リテラシーの向上にたいそう貢献する（はずだ）。かつて、そうした副読本の一つに、『なぜだろうなぜかしら』シリーズがあった。同シリーズは、小学1年生上→小学1年生下→小学2年生上→……といった具合に、学年が進行するにつれ、全12冊を逐次読み進めるスタイルをとる。私は同シリーズを買ってもらうのを楽しみにしていた。また1年成長した喜びを感じつつ、「へえ、世界はこうなっているのかあ」と無邪気に驚いていた当時は知るよしもなかったが、調べてみたところ、1955-6年に出版された同シリーズは、副読本なるジャンルの新機軸（の一つ）であったことが判明した。

同シリーズの特徴は二つある。まず、1問1答形式を全面展開していた。それまでの副読本はある程度の分量を読みこなすことが前提とされていた。次に、実際当時の小学生からの質問を収集し、答えることが基本とされた。現在、科学コミュニケーションには双方向性が大切だと強調されるが、ある意味でそれを先取りしていたのである。要するに、「ニーズ先行型の広く浅く方式」が時代の要請に合っていたのでしょね。

1977年、同シリーズはリニューアルされた。では、リニューアルにあたって、「ニーズ先行型の広く浅く方式」はどうなったのだろうか。リニューアルで目立つ変更点は二つある。まず幼稚園から小学4年までの各2冊計10冊となった。次に、解答の文章の量が格段に少なくなった代わりに、漫画がつくようになった。それも担当はかの手塚プロダクションである。変わらなかった主たる点も二つある。1問1答形式は維持された。そして、質問項目・内容はほとんど同じである。20年ほど経ち、小学生から質問を収集しなおしても、ほとんど同じだったそうである。（へえ、そんなものか。）かくして、「ニーズ先行型の広く浅く方式」は生き延びた。同路線を維持しつつ、ビジュアル化をはかったのがリニューアルの内実であった。

ビジュアル版は1997年以降、「品切重版未定」が続く。旧シリーズの「寿命」は20年余、新シリーズのそれも20年余。「ニーズ先行型の広く浅く方式」は半世紀弱の長きにわたり命脈を保ったのである。ビジュアル化の功罪についてももちろん考察しなければならないが、より重要な問題は以下の諸点だろう。「ニーズ先行型の広く浅く方式」の賞味期限はすでに切れてしまったのか。そうだとしたら、新機軸は何か。新機軸はすでに試みられているのか。「大空位」時代が継続中なのか。これらについては、次回をどうぞお楽しみに。再見！

★科学技術インタープリター養成プログラム  
<http://science-interpreter.c.u-tokyo.ac.jp/>





本学における産学連携活動を推進させようと、全学組織として設けられた東京大学産学連携本部。新コーナー「教えて！産連本部」では、今後の大学運営において、さらに重要な位置を占める当本部に対して、本学教職員の皆様からいただいた質問に、当本部スタッフがお答えします！

## 教えて！産連本部



産学連携本部にはアントレプレナー道場がありますね。今年で8年目だそうです。これまでに起業した事業はありますか。  
(研究員Tさん)

A

東京大学アントレプレナー道場の第1期から第7期までの間で、上級コースまで進級し、「修了」した学生(169名)からは、およそ20名の起業家が生まれています(CEO以外の創業パートナーも含む)。

ただ、アントレプレナー道場受講中に作成したビジネスプランそのままに起業する例はごく少なく、既存企業でのビジネス経験やビジネスプランの変更を経て、起業する事業が大半となっています。

また、上級コースまで「修了」しなかった受講生も含めると、正確な数字は現在調査中ですが、40名以上が起業しています。



学生が発明した場合はどのように取り扱われるのでしょうか？  
(事務職員Mさん)

A

大学と雇用関係に無い学生のみで発明を行った場合は、雇用関係のある教職員とは異なる扱いとなり、発明届出の必要は無く、個人で自由に取扱いすることができます。ただし、学生が大学による出願、ライセンス活動を希望する場合、発明届出を行い、大学による譲り受けるか否かの判断を経た後に、大学は特許を受ける権利を譲り受けることが可能です。

また、教職員と学生により共同で発明がなされた場合、教職員の内一人を代表届出者として、発明届出を行う必要があります。大学による譲り受けるか否かの判断がなされ、譲り受けると決定した場合、学生の同意を得ることで、大学は学生

の特許を受ける権利も譲り受けることが可能となります。

なお、いずれのケースにおいても、大学が特許を受ける権利を譲り受け、特許権として登録となった場合やライセンス等により収益があった場合には、教職員と同様の分配条件での発明者への補償がなされます。

詳しい情報をお知りになりたい場合は、東京大学発明等取扱規則をご覧ください。

<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/jp/materials/pdf/200701-130patent.pdf>

産学連携本部でサポートしている学内発企業は、過去に何社あり、事業規模はどの程度でしょうか。(研究員Kさん)

A

2004年に産学連携本部が発足して以降、本部が運営するインキュベーション施設を利用した企業は30社ほどあります。東京大学では、一部の他大学で行っているような、大学が「東

大発ベンチャー」を認定するような制度はありませんので、社数としての把握はしていませんが、学生が興した企業や、教員の持つ技術をベースにした企業で、産学連携本部でサポートしてきた企業は多数あります。

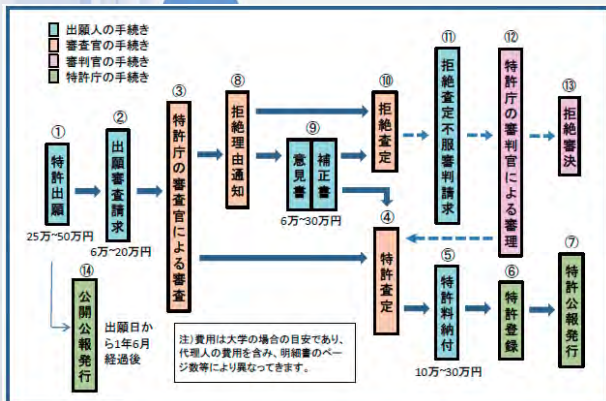
事業規模は千差万別ですが、インキュベーション施設を利用した企業の中には、従業員が100人近くになり、年商が十数億円になった会社もあります。



## コラム 知的財産用語の基礎知識

### 第5回 出願から特許化までの流れ

「知的財産」という言葉はよく聞けれど、人に説明できない、という方も多いのではないのでしょうか？ここでは、知的財産用語の基礎的な用語について解説します。(執筆:知的財産部)



特許を取得するためには、特許出願をして特許として登録されることが必要です。出願から特許化までの流れは左図のようになっています。左図の番号は本文中の番号と対応しています。なお、本学では出願人の手続きを学外の代理人(弁理士)に依頼しています。

①特許出願は、明細書、特許請求の範囲、要約書、図面(必要な場合)を添付した願書の特許庁へ提出することにより行います(通常は、インターネットを利用して出願します)。

特許出願日から3年以内に②出願審査請求をして、③審査官による特許性等の審査を受けます。審査の結果、拒絶理由がない場合は④特許査定となり、⑤特許料を納付すると⑥特許として登録され、特許権が発生します。特許を維持するためには、維持年金の納付が必要で、登録からの年数により維持年金の額が変わります。また、特許の内容を公表するために⑦特許公報が発行されます。

多くの場合、審査官により⑧特許性がない等の拒絶理由通知が出されます。これに対し、⑨意見書及び補正書を提出することができ、拒絶理由が解消されれば④特許査定となります。拒絶理由が解消されない場合は⑩拒絶査定となり、特許になりません。

⑩拒絶査定に対しては⑪拒絶査定不服審判を請求することができます。⑫審判官が審理し、拒絶理由が解消されれば④特許査定(特許審決)となります。また、拒絶理由が解消されなければ⑬拒絶審決となり、特許になりません。

また、審査とは無関係に、特許出願日から1年6月を経過すると発明の内容を一般に公開する⑭公開公報が発行されます。

連絡先: 産学連携本部 (本部産学連携課)  
電話: 内線22857 (外線03-5841-2857)  
WEBサイト: <http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

DUCR

検索



このページでは、政策ビジョン研究センターが現在最も重要視しているトピックスを中心に、そのときどきのホットニュースをお届けします。

### 3D デジタルデザインの法的保護

## 意匠法と著作権法 狭間にある「死の谷」

金沢工業大学大学院知的創造システム専攻  
教授・弁理士 杉光一成

日本には、意匠法と著作権法のいずれでも保護できない狭間といえる「死の谷」が存在する。意匠法の保護対象は有体物の形態でなければならない、というのが伝統的理解であり、これは「有体物のドグマ」と呼んでもよいだろう。では、有体物つまり「物品」としての形をなさないものは、どう保護されるのだろうか。3D デジタルデザインを例に考えてみたい。

いわゆる平板状のタブレット PC には物理的な意味でのキーボードがついていない。いうまでもなく、それは画面にキーボードが画像として表示されるからである。従来は物理的な「物品」だったものが、コンピュータのデジタル画像に置き換わる現象が起きていると言える。タッチパネルはその典型であり、ATM や駅の券売機でも同様のデジタルデザインが増えてきている。

現在の意匠法は、「物品」の操作に必要な画面表示を「物品」の一部を構成する要素として保護することとしている。しかし、物品自体に表示部を持たず、任意の物体の上にキーボードの画像を投影するような商品、さらには一部にとどまらず「物品」のすべてが完全にデジタルに置き換わったものも増えてきている。身近なところでは、紙の書籍に対する電子書籍や、コンピュータゲームの中に出てくる「仮想物品」が挙げられる。コンピュータで現実の世界を擬

似表現した「仮想世界」の中では、実際に対価を伴って売買されているいわゆる「仮想商品」もある。

3D デジタルデザインは将来有望な分野であるにも関わらず、これを保護する法制度は極めて不明確である。仮想世界のアプリケーションのように、自分で自分の分身を「創作」した場合、「物品」性がないためそのままでは意匠権は取得できないが、著作権による保護を受けることはできよう。また、絵画や漫画のように著作物性がある物品を仮想物品等へとそっくりそのままデジタル化する行為は複製または翻案として権利が及ぶと考えるべきだろう。しかし、たとえば自動車のように、典型的な実用品をデジタル化した場合、意匠権は「物品」ではない仮想の自動車には効力が及ばず、他方で実用品のデザインであるとして著作権を主張することもできないであろう。

仮想世界において仮想自動車はほとんどの場合に無断で複製されて販売され、それによって対価を得ているケースが多い。しかし、少なくとも典型的な実用品をそっくりそのままデジタル化した仮想物品等をゲームで活用したり、仮想空間で販売することで第三者が莫大な利益を上げたとしても、それについては意匠法による保護も著作権法による保護も受けられないという結論にならざるを得ない。すなわち、このような仮想物品等は意匠法による保護も著作権法



製品名「Characters,3D characters,Mascots,Comic figures」(登録共同体意匠第001269575-0001号)

による保護も受け得ない両者のいわば「死の谷」にあると考えられる。

意匠制度で最も広くデザインを保護しているのは欧州であり、韓国も 2012 年の改正後にはそれに近づく。米国は日本と同様に「物品」要件を持つが、弾力的な運用と解釈が可能であり、実際に「物品」要件は緩和されてきている実態がある。これらの諸国と比較する限り、日本が最も有体物ドグマに固執しているといえよう。このため、意匠法と著作権法との間において、もともとの「デザインの価値」をそのままかつ経済的に転用した仮想物品等の3D デジタルデザインは、他国では保護され得るにもかかわらず、日本だけが保護を受けられないのである。

意匠法の属する産業政策は俗に言えばビジネスの振興であり、著作権法の属する文化政策にはビジネスの振興という視点は基本的にない。ところが、デザインという創作物はいうまでもなくこの双方にかかわり得る境界領域である。ビジネスの振興にはコンプライアンスの観点からも可能な限り法的安定性が求められ、その意味では審査主義、登録主義、公示主義と親和性が高い。他方、文化の発展という観点からすれば、芸術家や作家を始めとして、自由でかつ手続的な制約のない創作活動を担保する視点がより重要となり、無審査主義と親和性が高くなる。デザインに関して新しい制度設計を行うという政策的観点からすれば、これらの適切な組み合わせをいかに行うかという視点が重要となる。

(本文は当センターウェブサイトより、電子書籍としてお読みいただけます。)

### 仮想世界と法を考える研究会

## 成果を電子書籍で発信

「仮想世界と法を考える研究会」は、仮想世界と法の問題について、特に知的財産法を中心としつつ、その他の関連領域について様々な分野の実務家、研究者とともに研究し、現行法における問題点を指摘するのみならず、今後ますますの拡大が予想される仮想世界に対する日本国政府の政策ビジョン形成に資する提言等を含めた研究成果を創出することを目的として 2009 年 7 月 29 日に発足した。

今回作成した電子書籍は、この研究会活動の成果として取りまとめられたものである。序章の「3Dの現状」という論文は本書のための書き下ろしであり、本章の「連載開始によせて」以下は、株式会社商事務「NBL」(2011年10月1日～12月15日)に「3D デジタルと知的財産」というテーマで連載された論文6本で構成されている。

研究の結果、3D デジタルの世界では、デザイン保護に深刻な問題があることが分かった。この成果を受け、新しいデザイン保護制度に関する研究会が発足する予定である。

### 「3D デジタルと知的財産」

- 序章: 3Dの現状
- 本章: 連載開始によせて/3D デジタル社会における知的財産制度への課題
- 第1回: 3D 表現に対する法的保護
- 第2回: バーチャルプロパティ論
- 第3回: 3D CG と著作権
- 第4回: 3D デジタルデザインの法的保護
- 第5回: バーチャルワールドと契約法の交錯
- 第6回: 仮想世界における商標権

[http://pari.u-tokyo.ac.jp/ebook/3d\\_all.epub](http://pari.u-tokyo.ac.jp/ebook/3d_all.epub)

上記 URL よりダウンロードしてご覧ください。  
なお、閲覧には電子書籍専用のビューアが必要です。

<http://pari.u-tokyo.ac.jp>



# Asian Diversity No.20 by ASNET 「日本・アジア学概論」

東京大学日本・アジアに関する教育研究ネットワーク(ASNET)では、大学院生向け研究科横断型教育プログラム「日本・アジア学」を開講しています。この学際的教育を学部生向けにも行ってみよう、という目的で、2012年度夏学期総合科目(国際・地域一般)「日本・アジア学概論:国際社会で活躍する基盤を身に付ける」が2012年4月9日に開講しました。昨年度に引き続き、2回目の開講です。

講義の目的は、大学に入学したばかりの若い学生達に、アジアに存在する様々な問題—工業化による環境汚染、国際公共事業をめぐる争議、交通渋滞と都市開発、資源開発と環境保全—について、自ら主体となって考える機会を提供することにあります。講義はASNETの参加する9名の教員が担当し、タイ、インドネシア、ベトナム、中国の4つのパートに分かれ、各国3回ずつ授業が行われます。各国のパートでは、理系の教員によるケース・メソッド方式の授業を通じて、アジアの社会が抱える様々な問題を考察した後、文系の教員がその背景を、歴史的・社会的な事情から解き明かしていきます。

初回講義では、約200名の学生が参集する中、古田元夫教授(総合文化研究科、本科目責任教員)によるガイダンス、羽田正教授(東洋文化研究所)による「日本・アジア学とは何か?」の講義、そして、堀井秀之教授(工学系研究科)によるケース・メソッド方式に関する説明が行われました。

受講にあたっては、事前に予習が義務付けられ、プレゼンテーションとディスカッションを通じた積極的な授業参加が求められるなど、大学1、2年生には少々ハードな授業かもしれません。しかし、受講生にとっては知的好奇心が尽きないようで、毎回熱心に予習をこなし、積極的に授業に参加しています。アジアに存在する様々な問題について、自らが主体となって学び、考えることは、進路選択そして将来、社会人として活躍していく中で、貴重な糧となることでしょう。ASNETはその学際的ネットワークを活用して、今後も大学院教育のみならず、学部教育にも力を入れていきます。(文・写真:安田佳代)



初回講義(2012年4月9日)の様子

日本・アジアに関する教育研究ネットワーク(ASNET機構)は、アジアのことを広く、深く知りたい学生の皆さんに研究科等横断型「日本・アジア学」教育プログラムも実施しています。詳しくは下記のURL:

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

## ～救援・復興支援室より～

No.13

### ■救援・復興支援室の活動(5月～7月)

- ▶5月 9日・・・平成24年度ゴールデンウィークボランティア隊の活動報告をウェブサイトに掲載
- ▶5月11日・・・研究科・研究所の救援支援活動—復興支援プロジェクトが掲載された広報誌記事等4件をウェブサイトに掲載
- ▶5月21日・・・第13回救援・復興支援室会議
- ▶5月26日～7月8日・・・学習支援ボランティアの活動  
活動場所:岩手県陸前高田市  
活動期間:5月26・27日/6月9・10日/6月23・24日/7月7・8日
- ▶6月16日～7月22日・・・学習支援ボランティアの活動  
活動場所:福島県相馬市  
活動期間:6月16・17日/6月30日・7月1日/7月7・8日/7月21・22日
- ▶6月21日・・・平成24年夏季「ボランティア隊」参加者募集開始  
[http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol\\_03\\_bosyu\\_24summervolunteertai\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_03_bosyu_24summervolunteertai_j.html)

### ■プロジェクト登録研究 85件(2012年3月21日現在)

⇒「再生のアカデミズム《実践編》」連載中。P21参照

### ■救援・復興支援室の活動の詳細はウェブサイトをご覧ください。

[http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/info\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/info_j.html)

### ■救援・復興支援室

Email: [kyuenfukkou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:kyuenfukkou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp) 内線:21750

## 第4話 分室

### 遠野ものがたり

リニューアルオープンしました!

遠野分室のある遠野市役所西館が、4月14日(土)に「元気わらすっこセンター」として開所しました。「わらす・わらすっこ」とは、東北地方の方言で「子供」の意味で、1Fは子育て総合支援課と保育協会、2Fは教育委員会が入り、各種申請・相談窓口も一本化された子育てと教育活動の総合拠点となりました。

遠野市では、少子化対策・子育て支援計画を「遠野わらすっこプラン」にまとめ、条例や基金を制定して遠野の宝・希望である「わらすっこ」を市全体で支援しています。

以前は、遠野市沿岸被災地後方支援室や各自治体の後方支援事務所等があり、震災対応・復興支援活動の情報等が飛び交う「殺伐」とした雰囲気でしたが、現在はわらすっこ達の楽しそうな声が聞こえる憩いの空間に一変。こんな所にも、復興元年の一面を垣間見れた気がします。

遠野分室は何処に??「3F」に移転しました。

どんどはれ・・・

文:赤崎公一



玄関前  
(看板に遠野分室)



3F移転後の遠野分室



館内案内版  
(3Fに遠野分室)



1Fの様子

執筆者紹介: 救援・復興支援室遠野分室勤務(総合企画部企画課係長)赤崎公一氏。東日本大震災にて実家(岩手県大槌町)が津波で全壊し、家屋・家財すべて流失。昨年7月より、妻と子(当時1歳)とマンションのローンを東京に残し、岩手県遠野市に移住。現在は、被災した母(65歳)と高校卒業以来の同居生活中。  
連絡先: [tohno-kyuenfukkou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:tohno-kyuenfukkou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp)

## コミュニケーションセンターだより No.89

### ■これからの季節にぴったりな新商品のご紹介！！

●文学部所蔵「竹取物語絵巻」より、扇「かぐや姫の昇天」ができました。

みなさんこんにちは！先月号で父の日プレゼントのご紹介をしたところ、沢山の方がプレゼントを選びにご来店くださいました！研究成果商品の「乾杯式アミノ酸」、「御酒ミニボトル」をはじめ、大変ご好評いただきました！！今後も季節にあったご提案をして参りますので楽しみにして下さいね！

さて、今回ご紹介する商品は・・・

扇「かぐや姫の昇天」です。

文学部の国文学研究室が所蔵する「竹取物語絵巻」所収の「かぐや姫の昇天」の場面の絵が描かれた扇です。

一枚の絵の中に、人々が去ってしまうかぐや姫を悲しむ場面、かぐや姫からの贈り物を渡す場面、そしてかぐや姫がまさに天に昇ろうとする場面が描かれており、ドラマティックな世界が見て取れます。

裏面にはシンプルかつシックに月の絵が描かれており、どちらの面も大変味わい深いです。

これからの季節、花火大会ではもちろんのこと仕事の場面でもご活用いただけます。是非ご来店いただき、お手にとってご覧下さいませ！！



扇「かぐや姫の昇天」  
¥3,800(税込み)

### ■UTCCスタッフオススメ商品

初めましてこんにちは！今年の春からUTCCスタッフになりました内海です。僕が自信を持ってオススメしたい商品は「ポストカード」です。一枚80円～と非常にお手頃で、赤門をはじめとする東大構内の有名スポットを写したものを数多く取り揃えています。

東大見学のお土産・記念に最適！！学内お散歩の際は是非コミュニケーションセンターにも遊びにいらして下さい！！



教養学部2年  
内海 晃輔

担当：UTCC三浦



東京大学コミュニケーションセンター  
The University of Tokyo  
Communication Center

The University of Tokyo

OPEN：月曜～土曜 10：00～18：00  
電話：03-5841-1039  
<http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp>

Relay Column

## ワタシのオシゴト 第76回

Rings around the UT

大学院教育学研究科・教育学部学生支援チーム 係長  
猪又 裕一さん

### 小さな仕事でも感謝の気持ちで...



職場でのヒトコマです(少々緊張気味です)

はじめまして、教育学部学生支援チームに勤務しております。「ワタシのオシゴト」は、主に教職課程に関する仕事で、教員免許取得に必要な教職科目の開設に係ることや、教育実習・介護等体験の申込みから修了までの全学的な連絡調整と諸手を担当しています。例年、教育実習を履修する学生は120名ほど、介護等体験を行う学生は100名ほどおります。東大の全学生数からみれば「小さな」数かもしれませんが、教員免許の取得を真剣に考えている学生のお役に少しでも立てればと願って仕事をしています。我がチームは他に、学部担当、大学院担当、留学生担当がありますが、日頃から何かとみんなの協力を支えられていますので、感謝の気持ちを大切にしたいものです。私事では、「小さな」ウエストを夢見て、土日に時間をみつけてはジムへ通っていますが、どうも汗を流した後は冷たくて喉越しのよい飲み物が美味しくくて…「小さな」ウエストへの道のりはまだまだ遠いようです。(苦笑)



教育学部のタフな事務長と副事務長、そして、心優しい学生支援チームのみんなです

得意ワザ：走るの遅いけど歩くのは速いみたいです  
自分の性格：マイペース系  
次回執筆者のご指名：栗原裕光さん  
次回執筆者との関係：助っ人(チームのメンバー)  
次回執筆者の紹介：縁の下の力持ち、  
気持ちのいい男前(誉めすぎ?)





噴水

## クスノキの穴を掘ったら、赤レンガ時代の法医学教室が出土した

今年の5月から、医学部本館前のロータリーに、総合図書館のクスノキを移植するための穴を掘っていたところ、大正12年の関東大震災の為に危険で使用不可能となった法医学教室が出土しました。赤レンガ時代、赤門をくぐると、北に衛生学教室、南に椿山があり、正面に東に向かう通りが今の教育学部前の銀杏並木の状態で続いていました。そして、現在の、医学部本館前のロータリーの所に、日露戦争直後の明治39年から使用されていた法医学教室の解剖室と研究室がありました。南に少し迂回すると今のケヤキ並木に沿って、法医学教室、解剖学教室（今の医学部本館あたり）、病理学教室（今の医学部図書館あたり）と解剖系の3教室が並んでいました。そして最後に、南側に医学部最初のお雇い外国人教師プロシヤの軍医ミュルレル、北側に最後のお雇い外国人教師のベルツ、スクリバの銅像がありました。現在もミュルレルはそのままの場所にありますが、ベルツとスクリバは、運動場の方に移設されました。「三四郎」の美禰子が眺めていた風景がそこにありました。今回出土した、赤レンガ時代の法医学教室は現在の経済学部の東に位置し、道が少し南から東に直角に迂回するまさにその地点が、赤レンガで堅牢に作られた土台としてそのまま露出しているようです。北の解剖室は、モルタルの薄い層があるだけで、すでに加賀藩の地層が掘り出されていました。南の研究室に比べると脆弱な感じがします。総合博物館の小石川分館の2階にジョバンニ・サッキが制作した木製の法医学教室模型が陳列されています。明治の写真で何度も見た白黒の映像が、総天然色で蘇り出土したことに感動を禁じえません。できれば、懐徳館の土台のように埋蔵文化財ですので赤レンガ時代の証拠品として保存してもらえればと切に願います。



(大学院医学系研究科・医学部 中嶋信)

Pick up!

## Todai Research

<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/todai-research/>

東大の研究紹介サイト「Todai Research」の情報をお知らせします。興味のある記事はありましたか？ぜひ、サイトをご覧ください！

Todai Research で検索

### 丸ごと掲載！ Research Highlights (論文紹介)

2012/5/17医学系研究科

#### 育つ環境が賢さに影響を及ぼす

刺激の多い環境下での記憶・学習能力の向上に KIF1Aが不可欠

コミュニケーションや運動などの刺激が多い環境は、記憶や学習能力を向上させることが知られています。さらに、アルツハイマー病などの脳神経疾患により効果があることも分かってきました。このような環境下では、記憶を司る海馬でのシナプス新生や、神経栄養因子BDNFという物質の増量など、脳内の神経細胞に変化が起こります。しかし、どのようなメカニズムで、刺激の多い環境が細胞や行動の変化を引き起こすのか、まだ解明されていません。

東京大学大学院医学系研究科の廣川信隆特任教授らは、神経細胞間の情報伝達に不可欠な物質を運ぶモータータンパク質として知られるKIF1Aが、刺激の多い環境下での記憶・学習能力の向上に重要な役割を担っていることを初めて示しました。研究グループは、刺激の多い環境で育ったマウスの海馬においてBDNFがKIF1Aの発現量を増大させていることを突き止めました。遺伝子改変によってマウスのKIF1A発現を抑えると、刺激の多い環境下で生育しても、海馬のシナプス新生も、プールの中でゴールを探すなどの行動実験における学習能力の向上も見られませんでした。

刺激などの経験によって脳内に変化が生じる仕組みの解明は、脳神経疾患治療への新しいアプローチとして期待されています。今回の成果は、その基礎的理解を深める重要な一歩です。(広報室 南崎 梓、ユアン・マツカイ)

#### 論文情報

Makoto Kondo, Yosuke Takei, and Nobutaka Hirokawa, "Motor protein KIF1A is essential for hippocampal synaptogenesis and learning enhancement in an enriched environment", *Neuron* Vol.73 Issue 4, 743-757



おもちゃや運動道具などを設置したマウス用のケージ © Nobutaka Hirokawa

過去の記事は、[Highlight>Research Highlights](#) 又は [Archive](#) から、いつでも読むことができます。ぜひチェックしてみてください！

P18では、掲載直後のアクセス数を調べた「インパクトランキング」を掲載しています！こちらに掲載しました「育つ環境が賢さに影響を及ぼす」もランクインしています。他にもどんな記事が注目を集めたのでしょうか？ぜひご覧ください。 [P18へGO!](#)

ご意見・お問い合わせはこちらまで

Mail : [kouhoukikaku@ml.adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:kouhoukikaku@ml.adm.u-tokyo.ac.jp) Ext : 21045  
東大ポータル >> 便利帳 >> 総合企画部 >> 広報課

<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/todai-research/>



読者投稿写真～東京大学の春夏秋冬～



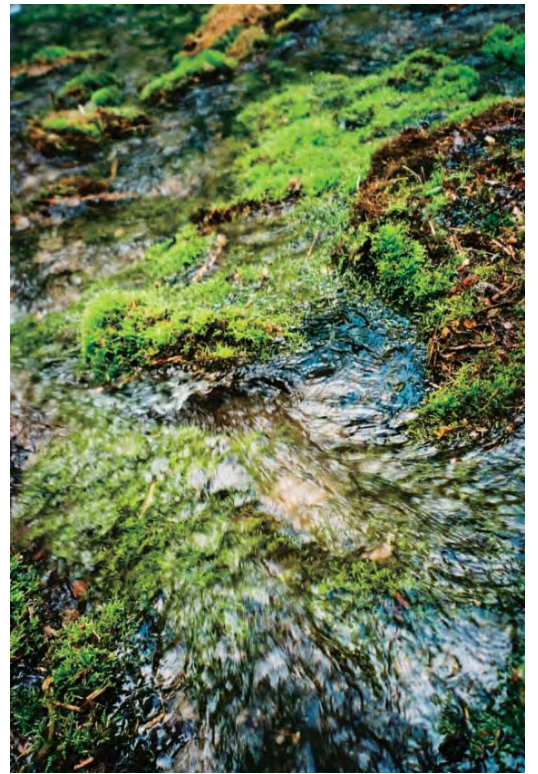
①



②



④



③



⑤



⑥

【春】①枝垂れ桜と安田講堂。朝の爽やかな空気のなかで（史料編纂所 飯塚英一郎さん）【夏】②夏の北海道演習林。古い倒木を礎に、太陽の光を受け新しい木が育っていく。これを倒木更新という（本部広報課 竹本遥子さん）③夏の北海道演習林。数十年前に降った雨が、土壌で時間をかけて濾過され、清涼な湧水となって流れ出す（本部広報課 竹本遥子さん）【秋】④写真撮影や散歩にたくさんの人が来ていました（本部契約課 牟田和彰さん）【冬】⑤ エゾフクロウ。北海道演習林の林内で。福郎、不苦勞、皆さんにも福が訪れますように…（北海道演習林 福岡哲さん）⑥雪のパウムクーヘン！一御殿下グラウンドの雪かき（卒業生室 林義之さん）



# INFORMATION

## お知らせ

### お知らせ

生産技術研究所

### 集まれ！東大発明王 第10回 東京大学学生発明コンテスト

今年で第10回を迎える学生発明コンテスト。本学の学生であればどなたでも参加できますので、皆様ふってご応募ください。また、教職員のみなさまにはコンテストの趣旨を、広く学生の方々に周知していただきますようお願い申し上げます。

#### 募集趣旨：

これからの知的立国を支える人材には、知的生産活動により得られた新規アイデアを個人の内に秘めておくばかりでなく、その新規性の権利を明確に主張できることが強く望まれています。柔軟な思考を持つ学生諸君に、そのような権利主張を行うトレーニングの機会を与えることを目的として、発明コンテストを開催しています。この機会を通じて、権利主張の能力を磨くとともに、知的財産権に対する理解を深めていただくことを期待しています。

※ ホームページで過去の本コンテストの詳細を見ることができます。

応募資格：本学の学生（学部学生・大学院生等）

募集期間：6月1日（金）～10月1日（月）（必着）

※ ホームページ上のエントリーフォームから氏名、所属、メールアドレスを送信してエントリーしてください。折り返し応募書類ならびに過去の応募例などをお送りします。

日程：10月下旬：書類審査終了 予備審査結果の通知

12月21日（金）：本審査 プレゼンテーション

2013年1月初旬：審査結果の通知

2013年1月下旬：表彰式

#### 募集分野：

一般部門：日用品から専門知識を活かしたもので、発明の分野を問いません。アイデアのみ、試作品段階でも結構です。

課題部門：今回の課題『安全と安心に役立つ発明』を募集します。

※ 課題部門の審査に当たってはアイデア、プレゼンテーション技術をより重視して行います。

#### 審査：

生産技術研究所（産学連携委員会）、産学連携本部、財団法人生産技術研究奨励会（TLO）、弁理士の関係者で行う予定

※ 審査においては、特許性よりもアイデア、プレゼンテーションを重視する予定です。

※ 本審査に際しては、特許事務所に先行事例の調査を依頼します。

表彰：発明大賞、産学連携本部長賞、生産技術研究所賞  
アイデア賞、奨励賞（数件）

※ 各賞には賞状および賞金（総額50万円）、上位入賞者には（株）ニコンより副賞、参加者全員に記念品が贈られます。

※ 優秀な発明に対しては、特許出願のアドバイスが与えられます。

主催：生産技術研究所、産学連携本部、財団法人生産技術研究奨励会（TLO）

詳細は下記ホームページをご覧ください。

<http://hatsumei.iis.u-tokyo.ac.jp/>

#### 問い合わせ先・応募先：

〒153-8505 東京都目黒区駒場4-6-1

東京大学生産技術研究所内

財団法人生産技術研究奨励会 発明コンテスト係

Tel：03-5452-6094 Fax：03-5452-6096

E-mail: hatsucon@iis.u-tokyo.ac.jp

### お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

### 「教養学部報」第548（6月6日）号の発行 ——教員による、学生のための学内新聞——

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、15号館ロビー、図書館ロビー、生協書籍部、駒場保健センターで無料配布しています。バックナンバーもあります。

第548号の内容は以下のとおりとなっていますので、ぜひご覧ください。

上野和紀：半導体＋電気化学＝超伝導

～電界効果による新しい超伝導体の発見

石浦章一：@生命科学に向けた心地良い場所  
八田秀雄：サラブレッドもヒトも乳酸を使って走っている

小森陽一：議論風発の教室へようこそ

武田将明：夢にさまよう日々

村松真理子：ヴィッラ・イ・タッティ滞在記——  
もしくは「至福」の「楽園」について

佐藤俊樹：駒場の桜 由来を訪ねて

〈本の棚〉

荒巻健二：松原隆一郎著『ケインズとハイエク——  
貨幣と市場への問い』

松原隆一郎：本村凌二著 歴史のフロンティア『帝国を  
魅せる剣闘士——血と汗のローマ社会史』

石井剛：中島隆博著『共生のプラクシス～国家と宗教』  
渦巻く公共空間と「義」の条件

オルガン委員会：第125回オルガン演奏会

### お知らせ

大学院農学生命科学研究科・農学部

演習林の広報誌「科学の森ニュース No.58」  
の発行

「科学の森ニュース」は3ヶ月に1回発行している演習林の広報誌で、6月10日(日)にNo.58を発行しました。演習林の最近の話題を始め、動植物や名所・名物を紹介するシリーズも載っています。広報センター、農正門、農学生命科学図書館、弥生講堂等で配布している他、演習林のホームページからもご覧になれます。

～ 科学の森ニュース No.58 目次 ～

〈トピックス〉

演習林長新任のご挨拶

演習林長 鈴木雅一

演習林所属の学生6名が大学院を修了しました

教育研究センター

辰巳晋一さんが笹川科学研究助成研究奨励賞を受賞しました

教育研究センター

2年ぶりの春の一般公開

千葉演習林

〈クローズアップ〉

農学系総務課研究支援チーム附属施設担当

教育研究センター

〈演習林のイベントダイジェスト〉

〈東京大学演習林出版局新刊紹介〉

〈科学の森の動植物紹介〉

モウソウチク

樹芸研究所

〈名所・名物案内〉

大麓山(だいろくさん)

北海道演習林

演習林のホームページ

<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>



### お知らせ

情報基盤センター

「ネットで検索！日本語論文＆英語論文」・「論文投稿シミュレーション」など「情報探索ガイドダンス」各種コース実施のお知らせ

講習会に参加して、文献の探し方の基本をマスターしましょう！

情報基盤センター図書館電子化部門では、定期的に、「情報探索ガイドダンス」各種コースを実施しています。

実際にパソコンを操作しながら実習するので、わかりやすいと大変好評です。

7月は、日本語と英語の代表的な文献データベース(CiNii ArticlesとWeb of Science)を対象とした「ネットで検索！日本語論文＆英語論文」など、各種コースを実施します。大学院数理科学研究科図書室との共催による、数学分野の文献データベース「MathSciNet」講習会もあります。

本学にご所属であれば、学生・教職員を問わず、どなたでも参加できます。ぜひご参加ください。





※学外からの利用方法はどのコースでも説明します。

上記の他に、柏と本郷で、研究補助担当教職員を主対象とする講習会も実施します。

(参照：P33「『秘書さんのためのはじめての論文の探し方』講習会実施のお知らせ」)

■ 7/4 (水) 15:00 ~ 16:15 [会場: 駒場 (数理研)]  
【MathSciNet 講習会】

※このコースは予約優先です。

米国数学会 (American Mathematical Society) 提供のデータベース「MathSciNet」で、数学分野の雑誌論文、会議録、研究図書など学術文献を検索する方法を実習します。(共催：大学院数理科学研究科図書室)

■ 7/5 (木) 10:30 ~ 12:00 [会場: 駒場 II (生研)]  
【SciFinder で化学分野の情報検索をするには?】

※このコースは予約優先です。

化学物質情報、科学技術文献情報、有機化学反応情報、特許文献などを検索できるデータベース「SciFinder」の利用方法を実習します。

提供元から講師を招聘して行います。今年5月にバージョンアップした「SciFinder」をマスターしましょう。(共催：生産技術研究所図書室・先端科学技術研究センター図書室)

■ 7/11 (水) 15:00 ~ 16:00 [会場: 本郷]  
【ネットで検索! 日本語論文 & 英語論文 : CiNii Articles と Web of Science を使って】

普段はインターネットや参考書等で情報を集めているという方、そろそろ文献データベースを使って本格的に学術論文検索をはじめましょう。その第一歩として、日本語論文・英語論文の代表的データベース、「CiNii Articles」と「Web of Science」の基本的な検索方法を実習します。

■ 7/13 (金) 15:00 ~ 16:00 [会場: 本郷]

【RefWorks を使うには?】

データベースの検索結果等を取り込んで整理し、参考文献リストを自動作成。文献管理ツールはそんな機能を持つ便利なツールです。

これから使ってみようという方向けに、Web版の文献管理ツール「RefWorks」の使い方を説明します。

代表的なデータベースからのデータの取り込み方と、参考文献リストの自動作成方法を実習します。

※【論文投稿シミュレーション】コースのRefWorks部分と内容が重複します。ご了承ください。

■ 7/24 (火) 15:00 ~ 16:00 [会場: 本郷]

【論文投稿シミュレーション: JCR と RefWorks を使って】

執筆中のその論文、投稿する雑誌は決めていますか? そして雑誌によって決まりが異なる参考文献リストの書き方、大変だと思いませんか?

雑誌の「インパクトファクター」が、投稿先を決める手がかりのひとつになるかもしれません。参考文献リストの作成にはWeb版の文献管理ツール「RefWorks」を活用してみましょう。文献データの整理～投稿誌の選定～投稿誌の規定に沿った文献リスト自動作成の流れを、2つのツールを使った実習でシミュレーション。

※講習内容の一部が【RefWorks を使うには?】コースと重複します。ご了承ください。

●会場:

【本郷】総合図書館 1階 講習会コーナー 定員 17名  
【駒場 (数理研)] 大学院数理科学研究科棟 2階 計算機室 定員 20名

【駒場 II (生研)] 生産技術研究所 An 棟 4階 中セミナー室 1 (An401・402) (※) 定員 30名

※ PC 持込による実習形式 [無線 LAN 利用]

生研所属者は生研の無線 LAN サービスが使用可能なので、事前に持参する PC のネットワーク接続申請、設定を行っておいて下さい。

その他学内者は utroam での接続になるので、事前に utroam アカウントを取得し持参する PC の設定を行っておいて下さい。

PC 持込ができない、または LAN 設定が済んでいない場合、講習会を聴講する形での参加となります。

●参加費: 無料

●本郷会場のコースは予約不要

● MathSciNet 講習会の申込方法:

大学院数理科学研究科図書室 (library \* ms.u.tokyo.ac.jp) (\*は@に置き換えて送信) に、以下のメールをお送りください。

メールのタイトル: MathSciNet 参加希望

本文: (1)氏名 (2)身分 (3)所属 (4)講師への質問

(5)利用経験

● SciFinder 講習会の申込方法：

生産技術研究所図書室 (toshu \* iis.u-tokyo.ac.jp)  
 (\*は@に置き換えて送信)に、以下のメールをお送り  
 ください。

メールのタイトル： SciFinder 参加希望  
 本文：(1)氏名 (2)身分 (3)所属 (4)講師への質問  
 (5)利用経験 (6)PC 持込の可否  
 (7)利用する無線 LAN

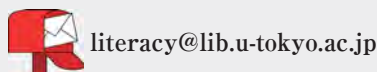
★授業・ゼミ・学生グループなどを対象にオーダーメイドで講習します！

論文の探し方の出張講習・オーダーメイド講習を随時  
 受付中です(無料)。授業やゼミの内容に合わせて講習  
 いたします。会場のことなど、ご相談に応じます。まずは  
 お気軽にお問い合わせください。どのキャンパスでも、  
 学生だけのグループでも OK です。

過去の実施例は以下の URL でご覧いただけます。  
 (http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/shuccho.html)

★ Litetopi メールマガジン発信中！

本学所属の方を対象に、データベースのニュースや講習  
 会のご案内などをお届けします。配信ご希望の方は、  
 下記アドレスまでメールでご連絡ください。(無料)



●お問い合わせ：

学術情報リテラシー係 03-5841-2649 (内線：22649)  
 literacy \* lib.u-tokyo.ac.jp  
 (\*は@に置き換えて送信してください。)  
 http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html  
 (ツイッター http://twitter.com/gacos\_todai)



お知らせ

情報基盤センター

「秘書さんのためのはじめての論文の探し方」  
 講習会実施のお知らせ

講習会に参加して、文献の探し方をマスターしまし  
 ょう！

情報基盤センター図書館電子化部門では、定期的に、

“情報探索ガイダンス” 各種コースを実施しています。

7月・8月は、研究補助担当教職員を主対象とする「秘  
 書さんのためのはじめての論文の探し方」を本郷と柏で  
 実施します。

本学にご所属であれば、学生・教職員を問わず、どな  
 たでも参加できます。ぜひご参加ください。

※「秘書さん」以外の方ももちろん歓迎です。

「秘書さんのためのはじめての論文の探し方」  
 主に対象教職員(学内訪問型有期勤務教職員含む)ですが、  
 東京大学に所属の方ならいつでも参加できます。

in 柏	7/17 (火)	13:30 ~ 14:45
	7/17 (火)	15:15 ~ 16:30
in 本郷	7/19 (木)	15:30 ~ 16:30
	8/6 (月)	15:30 ~ 16:30
	8/21 (火)	11:00 ~ 12:00

会場：柏キャンパス 柏図書館1階 ラーニングサポートサービス (予約優先 定員各回15名)  
 会場：本郷キャンパス 総合図書館1階 講習会コーナー (予約優先 定員各回17名)

こんなことで困っていませんか？解決方法をご紹介します！  
 ・先から読まれた論文をどうやって選んだらいいかわからない。  
 ・文献リストの読み方がわからない。  
 ・メールや検索から論文を探すにはどう検索していいかわからない？  
 ・読みたい論文が揃っていない大学がキャンパスにあるんだけど、どう取りよせればいい？

申込先：学術情報リテラシー係宛に、以下のメールをお送りください。  
 literacy@lib.u-tokyo.ac.jp  
 メールタイトル：秘書向けガイダンス参加希望 (参加日・時間・本郷 or 柏)  
 本文：(1)参加日・時間・本郷 or 柏 (2)氏名 (3)身分 (4)所属 (5)講師への質問 (6)利用経験  
 (7)柏会場の方はECCSアカウントの有無

情報基盤センター学術情報リテラシー係・柏図書館共催  
 literacy@lib.u-tokyo.ac.jp 03-5841-2649 (内線22649)  
 http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html  
 http://twitter.com/gacos\_todai

【秘書さんのためのはじめての論文の探し方】

- 日時
- 7/17 (火) 13:30 ~ 14:45 [会場：柏]
- 7/17 (火) 15:15 ~ 16:30 [会場：柏]
- 7/19 (木) 15:30 ~ 16:30 [会場：本郷]
- 8/6 (月) 15:30 ~ 16:30 [会場：本郷]
- 8/21 (火) 11:00 ~ 12:00 [会場：本郷]
- (同内容5回) ※予約優先

研究補助を担当されている教職員(短時間勤務有期雇  
 用職員含む)を主対象として、文献リストの読み取り  
 方、電子ジャーナルで論文を入手する方法、代表的な文  
 献データベース(日本語・英語)の使い方を、実際にパ  
 ソコンを操作しながら実習します。

インターネット初心者の方も歓迎です。先生に頼まれ  
 た論文の検索で困っていませんか？この機会に、論文の  
 探し方の基本をマスターしましょう！

(共催：柏図書館)

●会場：

【本郷】総合図書館 1階 講習会コーナー 定員17名  
 【柏】柏図書館 1階 ラーニングサポートサービス  
 定員15名

●参加費：無料

●申込方法：

予約優先です。先着順ですので、お早めにメールでお申  
 込みください。席に余裕があれば、当日の参加もOK！



### ■申込み先：

学術情報リテラシー係 (literacy \* lib.u-tokyo.ac.jp)  
(\*は@に置き換えて送信)に、以下のメールをお送り  
ください。

メールのタイトル： 秘書向けガイダンス参加希望 (参  
加日・時間・会場)

本文：

(1)参加日・時間・会場 (2)氏名 (3)身分 (4)所属 (5)  
講師への質問 (6)利用経験 (7)柏会場の方はECCSア  
カウントの有無

上記の他にも、各種講習会を実施します。こちらもご  
参加いただけますので以下をご参照ください。

(参照：P31「『ネットで検索！日本語論文&英語論文』・  
『論文投稿シミュレーション』など“情報探索ガイダンス”  
各種コース実施のお知らせ」)

### ★授業・ゼミ・学生グループなどを対象にオーダーメイドで講習します！

論文の探し方の出張講習・オーダーメイド講習を随時  
受付中です(無料)。授業やゼミの内容に合わせて講習  
いたします。会場のことなど、ご相談に応じます。ま  
ずはお気軽にお問い合わせください。どのキャンパスでも、  
学生だけのグループでもOKです。

過去の実施例は以下のURLでご覧いただけます。  
(<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/shuccho.html>)

### ★ Litetopi メールマガジン発信中！

本学所属の方を対象に、データベースのニュースや講  
習会のご案内などをお届けします。配信ご希望の方は、  
下記アドレスまでメールでご連絡ください。(無料)



[literacy@lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:literacy@lib.u-tokyo.ac.jp)

### ●お問い合わせ：

学術情報リテラシー係 03-5841-2649 (内線：22649)  
literacy \* lib.u-tokyo.ac.jp  
(\*は@に置き換えて送信してください。)  
<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>  
(ツイッター [http://twitter.com/gacos\\_todai](http://twitter.com/gacos_todai))

## お知らせ

国際本部 日本語教育センター

### スポット講座「日本語でプレゼンテーション」 開講のお知らせ

本センターでは、1学期間を通じて開講する通常の各  
種日本語コースのほか、定期的に各種のスポット講座  
も開講していますが、今回は「日本語でプレゼンテーシ  
ョン」のご案内です。

日本語スポット講座  
「日本語でプレゼンテーション」  
開講のお知らせ

概要：日本語でプレゼンテーションをする場合に必要になる「パワーポイントのスライドの  
作り方」や、「発表のときの日本語表現」などについて学びます。

第1回：日本語でスライドを作ろう  
タイトルつけ方、わかりやすい構成、スライドの日本語表現、など

第2回：日本語で発表してみよう  
発表で使われる表現、スライド順の説明のつなぎ方、質疑応答のしかた、など

日時：2012年7月19日(木)、26日(木)の2日間、午後1時30分～5時

会場：東京大学日本語教育センター(本郷キャンパス、第2本館棟5階)

対象：東京大学の留学生または外国人研究者

定員：15名(先着順)

申込期間：6月11日(月)～7月13日(金)  
\*定員に達したら、その時点で締切ります。

申込方法：日本語教育センターのホームページから申込フォームをダウンロードして記入のうえ、  
留学生・外国人研究支援課(申請先：学生支援センター2階)に申し込んでください。

問い合わせ先：申込方法について → 留学生・外国人研究支援課 (電話 5841-2944)  
授業内容について → 日本語教育センター

[日時] 7/19(木)、7/26(木)の両日  
13:30～17:00(全2回)

[会場] 日本語教育センター  
(本郷キャンパス・第2本館棟5階)

[対象] 本学の留学生または外国人研究者(定員15名、  
先着順に受付)

### [内容など]

学内でのゼミや学会などで、日本語でプレゼンテー  
ションをする機会がある留学生の皆さんのための講座で  
す。

日本語でプレゼンテーションをする場合に必要になる  
「パワーポイントのスライドの作り方」「話の組み立て型」  
「発表での話し方」「質疑応答のスキル」などを集中的に  
学びます。

これらについてレクチャーを受けるだけではなく、実  
際に受講者一人ひとりが、指定された課題題文の内容に  
沿って、パワーポイントのスライドを作成し、プレゼン  
テーションを行うところまでを、センター教員のアドバ  
イスのもとで、体験できます。

課題論文は申し込み時に渡します(各受講者の専門分  
野に合わせることはできませんが、理系・文系を問わず、  
興味をもって扱える内容の課題です)。受講者はまずこ

の課題論文を読んで、指定された日までに事前課題を提出した上で、受講してください。

●第1回「日本語でスライドを作ろう」

タイトルのつけ方、わかりやすい構成、スライドの日本語表現、など

●第2回「日本語で発表してみよう」

発表で使われる表現、スライド間の説明のつなぎ方、質疑応答のしかた、など

[受講料] 無料

[申込資格] 本学の留学生または外国人研究者で、次の3つの条件に合う人。

- ① 日本語能力試験 N1 合格程度(一般日本語コース「レベル5」程度)の日本語能力があること。
- ② 課題論文を読んで、内容が理解できること。
- ③ 前記の時間帯すべてに出席できること。

なお、今期の集中日本語コース・学術日本語コースの受講者は、受講できません。

[申込方法] 日本語教育センターのHPから、該当する申込書をダウンロードし、必要事項を記入して、留学生・外国人研究者支援課(本郷キャンパス・御殿下記念館・「学生支援センター」2階)に持参。

[申込期限] 7月13日(金)正午(受付時間は、前日までは、毎日17時までですが、締切日は正午までです。)ただし、先着順に受け付け、定員になった場合は、これ以前でも締め切ります。

[問い合わせ先]

申込方法→日本語教育センター事務(留学生・外国人研究者支援課)内線:22564

授業内容→日本語教育センター 内線:22563

## お知らせ

生物生産工学研究センター

微生物機能代謝工学部門(協和発酵キリン)  
発足記念シンポジウム

生物生産工学研究センターでは、微生物機能代謝工学部門(協和発酵キリン)発足を記念し、下記の要領でシンポジウムを開催いたします。参加申込は不要です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

生物生産工学研究センター・微生物機能代謝工学部門(協和発酵キリン)発足記念シンポジウム

「微生物代謝研究の新局面」

日時:7月30日(月)13:30~17:30

(17:30より懇談会)

場所:弥生講堂・一条ホール(講演)

弥生講堂アネックスセイホクギャラリー(懇談会)

- 13:30 五十嵐 泰夫 生物生産工学研究センター長挨拶  
長澤 寛道 農学生命科学研究科長挨拶  
松田 譲 協和発酵キリン株式会社相談役挨拶

【講演】

- 13:50 五十嵐 泰夫(生物生産工学研究センター・農学生命科学研究科)  
「応用微生物の来た道、往く道」
- 14:30 西山 真(生物生産工学研究センター)  
「アミノ酸代謝制御の分子機構」
- 15:00 小林 達彦(筑波大学)  
「ニトリル代謝における酸の変換:ユニークな酵素機能」
- 15:30 休憩
- 15:50 吉田 稔(独立行政法人理化学研究所)  
「タンパク質のアセチル化の多様な生理機能」
- 16:20 古園 さおり(生物生産工学研究センター)  
「タンパク質短鎖アシル化修飾によるバクテリアの代謝制御」
- 16:50 小泉 聡司(協和発酵バイオ株式会社)  
「ジペプチド直接発酵法の開発」
- 17:20 閉会の挨拶(清水 謙多郎・農学生命科学研究科)
- 17:30 懇談会

懇談会会費:2000円(当日受付)

懇談会参加申込:辻田(tsujiita@ofc.a.u-tokyo.ac.jp)

問い合わせ先:生物生産工学研究センター微生物機能代謝工学部門(協和発酵キリン)古園さおり  
(uskos@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp)

詳細については、生物生産工学研究センターホームページ(<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/biotec-res-ctr/>)上で随時お知らせいたします。



## 齋藤日向名誉教授

本学名誉教授齋藤日向先生は、4月15日に逝去されました。享年85歳でした。

先生は、昭和2年1月10日に宮崎県にお生まれになり、昭和23年東京大学農学部農芸化学科を卒業され、助手、助教授を経て、昭和53年教授（応用微生物研究所 現：分子細胞生物学研究所）に就任されました。以来、昭和62年に定年により退官されるまで同研究所第二研究部（遺伝・育種）の主任教授として、学術研究並びに学部・大学院教育に従事し多くの研究者を養成されました。

この間昭和57年から62年まで応用微生物研究所長を務められたほか、本学評議員、組換えDNA実験安全委員会委員等を歴任し、学内行政に尽力されました。

また、本学退官後は帝京大学医学部教授として研究教育に従事し、この間同学部医真菌研究センター所長や同センターの客員教授を務め、私学の振興と教育・研究に貢献されました。



先生は、微生物遺伝学を中心としたバイオテクノロジーの基礎的研究を行ってきました。特にフェノールを用いた形質転換DNAの調整法並びにプロフェージ形質転換法による枯草菌遺伝子のクローン化技術は、国際的に高い評価を受け多数の研究者に用いられており、またバチルス属細菌における種特異性の研究や放線菌におけるコスミドベクターの開発や新制限酵素の発見等多くの成果をあげられました。

一方、学外においては、文部省学術審議会専門委員や科学技術会議専門委員など各省庁・政府関係の専門委員に任ぜられ、日本における学術・研究行政ならびにバイオテクノロジーの進展に大きく貢献されました。

これらの功績により昭和58年には日本農芸化学会賞（鈴木賞）を、また平成2年には紫綬褒章、平成10年には勲三等旭日中綬賞を授与されました。

長年にわたり多くの優れた研究業績をあげ、多数の優秀な人材を育成するとともに本学における学内行政に広く寄与し、更に各省庁の専門委員等として日本における学術研究・科学技術行政に幅広く参画した素晴らしいご功績と温かいお人柄を偲びつつ、ここに謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

（分子細胞生物学研究所）

## 人事異動（教員）

発令日、部局、職、氏名（五十音）順

発令日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（採用）			
24.6.1	四本 裕子	大学院総合文化研究科准教授	
24.6.1	井原 智彦	大学院新領域創成科学研究科准教授	産業技術総合研究所研究員
（昇任）			
24.5.16	浜垣 秀樹	大学院理学系研究科附属原子核科学研究センター教授	大学院理学系研究科附属原子核科学研究センター准教授
24.5.16	矢向 謙太郎	大学院理学系研究科附属原子核科学研究センター准教授	大学院理学系研究科助教
24.5.16	河村 知彦	大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター教授	大気海洋研究所准教授
24.6.1	南學 正臣	大学院医学系研究科教授	医学部附属病院助教
24.6.1	藤井 知行	大学院医学系研究科教授	大学院医学系研究科准教授
24.6.1	西松 寛明	大学院医学系研究科准教授	医学部講師
24.6.1	良永 知義	大学院農学生命科学研究科教授	大学院農学生命科学研究科准教授
24.6.1	平山 和宏	大学院農学生命科学研究科准教授	大学院農学生命科学研究科助教
24.6.1	新宅 純二郎	大学院経済学研究科教授	大学院経済学研究科准教授
24.6.1	伊藤 耕一	大学院新領域創成科学研究科教授	大学院新領域創成科学研究科准教授
24.6.1	本田 利器	大学院新領域創成科学研究科教授	大学院工学系研究科准教授

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。  
 東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。



# 第85回五月祭開催

5月18日(金)午後の学内公開、19日(土)、20日(日)の一般公開と、晴天に恵まれた本郷地区キャンパスにて、第85回五月祭が開催されました。

屋外では、区画ごとに色の異なるテントの模擬店が立ち並び、安田講堂、図書館前に加え、今年は農学部にもステージが設けられ、各種パフォーマンスやバンド演奏で盛り上がりました。各学部の建物内では、研究成果の展示や参加型の企画が催され、高校生や親子連れも多数来場していました。また、濱田純一総長による秋入学特別講演会、東京スカイツリーオープン記念講演会など、今年ならではの企画も好評を博しました。

約500近くの企画が出店・展示され、約12万人(昨年度7万人)もの来場者で賑わいました。

開門!

3,2,1.



赤門前の賑わい



農学部名物企画!



近未来体験



ご協力いただいた学内関係者、ご来場の皆様に深くお礼を申し上げます。来年もよろしく願いいたします。

■本件お問い合わせ先：  
本部学生支援課  
井上・土井 (内線22514)

# Contents

## 特集

- 02 「入学時期等の教育基本問題に関する検討会議」  
発足  
04 東京大学 味なお店ガイド 一大学とともに歩  
んで100数年—

## NEWS

- 08 春の紫綬褒章受章

### 一般ニュース

- 09 本部学生支援課  
第64回東京大学・一橋大学対校競漕大会開催  
される  
10 本部留学生・外国人研究者支援課  
「東京大学外国人留学生特別奨学制度平成24年  
度4月期研究奨励費受給者証書授与式」を開催

### 部局ニュース

- 11 大学院農学生命科学研究科・農学部  
附属牧場新築牛舎お披露目会を開催  
11 低温センター  
平成24年度低温センター安全講習会（第一回・  
第二回）開催  
12 大学院新領域創成科学研究科、物性研究所、大気海  
洋研究所、宇宙線研究所、カブリ数物連携宇宙研究  
機構  
「柏キャンパス in 駒場」開催報告  
13 大学院人文社会系研究科・文学部  
第2回東京大学文学部公開講座を開催  
14 大学院法学政治学研究科・法学部  
新入生歓迎会、外国人留学生等との懇談会を開  
催  
14 大学院経済学研究科・経済学部  
留学生社会科見学・懇談会を実施  
15 史料編纂所  
日露関係史料をめぐる国際研究集会を開催  
16 大学院教育学研究科・教育学部  
留学生懇談会の開催  
16 東洋文化研究所  
東文研・ASNET 共催セミナーが50回目を迎え  
る  
17 大学院農学生命科学研究科・農学部  
「第三回放射能の農畜水産物等への影響について  
の研究報告会」が開催される

### キャンパスニュース

- 19 本部学務課  
平成24年5月1日現在学生数 一学部学生  
14,018人、大学院学生13,624人、研究生等  
612人—

## コラム

- 21 再生のアカデミズム<実践編> #04  
22 ひょうたん島通信 第6回  
23 決算のDOOR ~数字が語る東京大学 第21回  
23 インタープリターズバイブル vol.59  
24 Crossroad 産学連携本部だより vol.79  
25 Policy + alt vol.33  
26 ASIAN DIVERSITY No.20  
26 救援・復興支援室より No.13

### ◆表紙写真◆

東大構内専門店連合会の方々

撮影：新光社 佐々木克也さん（4～7ページに関連記事）

- 27 コミュニケーションセンターだより No.89  
27 Relay Column「ワタシのオシゴト」 第76回  
28 噴水 クスノキの穴を掘ったら、赤レンガ時代  
の法医学教室が出土した

## INFORMATION

### お知らせ

- 30 生産技術研究所  
集まれ！東大発明王 第10回 東京大学学生発明  
コンテスト  
30 大学院総合文化研究科・教養学部  
「教養学部報」第548（6月6日）号の発行  
——教員による、学生のための学内新聞——  
31 大学院農学生命科学研究科・農学部  
演習林の広報誌「科学の森ニュース No.58」の  
発行  
31 情報基盤センター  
「ネットで検索！日本語論文&英語論文」・「論文  
投稿シミュレーション」など“情報探索ガイド  
ダンス”各種コース実施のお知らせ  
33 情報基盤センター  
「秘書さんのためのはじめての論文の探し方」講  
習会実施のお知らせ  
34 国際本部 日本語教育センター  
スポット講座「日本語でプレゼンテーション」  
開講のお知らせ  
35 生物生産工学研究センター  
微生物機能代謝工学部門（協和発酵キリン）発  
足記念シンポジウム

## 訃報

- 36 齋藤日向名誉教授

## 事務連絡

- 37 人事異動（教員）

## 巻末特集

- 38 第85回五月祭開催

## 淡青評論

- 40 国際機関に勤務する日本人職員

## 編集後記

ものすごく久しぶりに編集後記を書いています。あまりにも書  
いていなかったらしく先日同期Y氏から「最近編集後記書い  
てないよね」とつっこまれてしまいました。（さぼっていたわ  
けではありませんよ！）さてさて今月号の特集「東京大学 味  
なお店ガイド」はお楽しみいただけたでしょうか。取材の際は、  
どのお店からも、本当に味のあるお話ばかり聞くことができ、  
東大には色々な方に支えられていたんだなと感動しました。  
また、岡田製本店さんでは、実際の製本に使う機械を見せてい  
ただき大興奮でした。紙を数ミリの束にしてミシンをかけ、そ  
れを束ねて1冊の本にしてカバーをつけるという作業を、一つ  
一つ丁寧に手で、と聞いたときはひえ～っと思いました。まさ  
に職人技ですね。一度は訪ねてみたい東京大学の味なお店たち、  
是非みなさまにもご利用いただければとおもいます。（ち）





七徳堂鬼瓦

## 国際機関に勤務する日本人職員

昨年6月ハーグ（オランダ）に出張した。濱田総長がハーグにある国際機関の関係者で行う協議に同席するためである。ハーグは、130以上の国際機関がある国際都市である。重要な国際裁判所である国際司法裁判所、常設仲裁裁判所、イラン米国請求裁判所のほかに、個人を裁く国際刑事裁判所、旧ユーゴ国際刑事裁判所、シエラレオネ特別裁判所、レバノン特別裁判所があり、その他国際機関として化学兵器禁止機関、ハーグ国際私法会議などがある。これらの国際機関・国際裁判所で働く日本人職員（とりわけ法律家）を

いかに増やすか、東京大学がそれにどのように貢献できるか、が協議のテーマだった。

世界にたくさんある国際機関に勤務する日本人職員は多くない。日本が拠出する分担金の額からすれば、国際連合に勤める日本人はもっと多くてよい。アメリカが加盟していない国際刑事裁判所では、日本は最大の拠出国である。それなのに同裁判所で働く日本人職員は少数にとどまる。われわれの生活に大きな影響を与える世界貿易機関の日本人職員も数えるほどしかいない。ハーグは国際裁判所が特に多い都市である。国際裁判所に勤める日本人の法律家をいかに増やすかが焦眉の課題である。

国際司法裁判所では小和田恒氏が、国際刑事裁判所では尾崎久仁子氏が裁判官を務めている（小和田氏は本年2月までは所長だった）。両氏（本学卒業生）とも、国際裁判所に勤める日本人職員が少ないことを憂慮している。ただ、日本人法律家が国際裁判所の法務官として勤務する例はないわけではない。現に、旧ユーゴ国際刑事裁判所と常設仲裁裁判所では、法学政治学研究所の卒業生が法務官として勤務している。国際司法裁判所でも、つい最近まで本学卒業生が法務官を務めていた。

帰国後、法科大学院で国際機関でのインターンシップに関する説明会を催したところ、多くの学生が参加してくれた。国際機関でインターンの経験を積むことに関心をもつ学生がたくさんいるのは心強い。国際機関・国際裁判所の職員への門は広くはない。本学卒業生は、他国の候補と比べ、知力においては決してひけをとらない。課題は、語学力、プレゼン力、自己主張、経験などだろう。本学卒業生の中から、国際機関・国際裁判所で活躍する人材が輩出することを期待してやまない。

岩沢 雄司（大学院法学政治学研究所・法学部）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報室の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報室までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、本部広報課を通じて行ってください。

No.1426 2012年6月25日  
東京大学広報室

〒113-8654  
東京都文京区本郷7丁目3番1号  
東京大学本部広報課  
TEL：03-3811-3393  
e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp  
<http://www.u-tokyo.ac.jp/>